

令和 2 年度

事 業 報 告

社会福祉法人 品川総合福祉センター

目 次

法人事業報告	1
法人研修事業報告	5
地域福祉課事業報告	7

高齢者群

1. 特別養護老人ホーム かえで荘事業報告	11
2. 特別養護老人ホーム 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告	15
3. 特別養護老人ホーム 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告	19
4. グループホーム八潮南事業報告	23
5. 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告	27
6. 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告	29
7. 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告	31
8. 在宅介護支援センター事業報告	33

障害者群

1. 障害者支援施設 かもめ園（知的障害部門）事業報告	35
2. 障害者支援施設 かもめ園（身体障害部門）事業報告	39
3. 障害福祉サービス事業 サンかもめ事業報告	43
4. 品川区立心身障害者福祉社会館事業報告	45
5. 相談支援事業 品川区旗の台障害児者相談支援センター事業報告	51
6. 特定相談支援事業 品川区大井第二障害者計画相談支援事業所事業報告	55
7. 特定相談支援事業 品川区中延障害者計画相談支援事業所事業報告	57
8. 品川区障害者地域活動支援センター事業報告	59
9. 障害福祉サービス事業 福祉工場しながわ事業報告	61
10. 障害福祉サービス事業 鮫洲なぎさの家事業報告	63
11. 障害福祉サービス事業 さつき事業報告	65
12. 保育所 八潮中央保育園事業報告	67

その他

1. 品川区立高齢者住宅 八潮わかくさ荘事業報告	69
2. 品川区立高齢者住宅 大井倉田わかくさ荘事業報告	71
3. 品川区立大井三丁目高齢者憩いの場事業報告	73

令和2年度 法人事業報告

1. 重要課題

本年度は、中期経営計画の二年目にあたり、(1) 収支改善、(2) 人権尊重、(3) 人材育成の課題について取組みを進めた。

- (1) 収支改善に向けて、各施設単位で収支計画進行管理シートを使い、課題分析、改善策の検討を行い、課題解決への取組みを行った。法人全体で取り組む課題として、業務委託費及び超過勤務の削減について取組んだ。業務委託費の削減については給食、ビル管理、運転代行などの内容を検討し、一部ビル管理と給食調理業務の業者変更を行った。超過勤務については部会から事業所へのヒアリングを実施し、具体的な取り組みにつなげた。その結果法人全体で前年度比約30%減を達成した。
- (2) 人権部会で行った「不適切ケアに関する職員アンケート」の結果分析を進め、不適切ケアの原因となる諸状況について分析し、データをまとめた。フィードバックの第一段階として施設長会にて内容確認、意見収集を行った。
- (3) 人材定着のために、法人全体で取り組む働き方改革基本方針を策定し、職員の健康増進、ワークライフバランス、事務の効率化、ICT活用、勤務制度検討、超過勤務削減などの内容を盛り込んだ。令和3年度に試行し、職員の意見取り込みをした後、令和4年度の本運用を目指し準備を進める。

人材育成では、個人研修計画、研修記録のデータ管理等の準備を進めた。

職員採用については、応募者の重要な情報源であるホームページの改良に向け検討員会で準備を進めた。

2. 諸課題解決の取組み

- (1) 品川区立八潮北保育園の令和4年度運営業務委託に向け、プロポーザルに参加し当法人への委託が決定した。年度後半に準備室を設置し、準備を進めている。
- (2) 八潮中央保育園改修について品川区と協議し、令和3年度基本設計、令和4年度の改修が決定した。
- (3) 八潮南特別養護老人ホームの指定管理継続が決まり、経営安定に向けた区との協議の結果、特養の定員変更が行われた。
- (4) 品川区立心身障害者福祉会館について、生活介護事業利用者重度化への対応として、1階フロアの改修および医療ケア対応の準備を行った。また、移動支援従事者養成研修を実施した。
- (5) 中延障害者計画相談支援事業に加え、2か所目の事業所を大井第二在宅介護支援センターに設置した。

3. サービス管理

- (1) 職員の人権意識やサービス意識の向上に向け、虐待防止委員会、サービス向上委員会などの活動により、職員の支援状況の実態把握、必要な教育、育成、サービス点検を進めた。
- (2) 苦情解決第三者委員会、サービス点検調整委員会を開催し、委員からの助言等を利用者サービスの向上に生かした。また、品川区サービス向上研究会の活動に積極的に参加し、同会作成の品川区版サービス自己評価等を活用した。法人内では、相互視察を実施し相互検証を進めた。
- (3) 施設稼働率向上に向け、施設稼働率向上担当課長（高齢者施設・障害者施設）を引き続き配置、分野ごとの担当者会議を実施し、課題共有を図り、経営会議で情報共有、進行管理を行った。取り組みの成果として、入所系施設では一定の改善が図られた。しかし通所系では、コロナ対策の自粛の影響を大きく受け、稼働率は低迷した。
- (4) 令和2年4月、令和3年1月と新型コロナウィルス緊急事態宣言が発出され、年間を通じ、法人全体を上げて感染防止に取組んだ。衛生用品の不足した時期には、施設間での融通や法人内での共同購入などで対応した。

法人内で感染防止対策の情報共有、職員周知を徹底した結果、職員の感染例は数件あったものの、施設内での二次感染は発生しなかった。

利用者の皆様には、行事中止、外出制限、面会制限など、活動に制限をかけなければならない事態となった。

4. 人事・労務管理

- (1) 職員採用に関しては、年間を通じ、応募者に合わせ採用試験を随時実施（年間3~4回実施）した。コロナ禍で直接の面接が困難な時期があったが、就職説明会や採用面接をオンラインで実施する等工夫し、令和4年採用は目標値に近い人数を獲得することができた。
- (2) 内定者説明会は、コロナ禍で直接開催は出来なかつたが、オンラインで開催し、内定者へのフォローを実施した。
- (3) 職員の健康・衛生管理の充実に向け、法人全体で安全衛生委員会を活性化させ、働きやすい職場作りを推進した。心身の不調に陥る職員もあり、健康支援室、総務課が中心となり対応した。
- (4) 新型コロナウィルス感染が進む中、通勤中や職務中の三密状態の回避を目的として、時差出勤、通勤経路変更、在宅勤務を奨励し、各施設単位で時限的に実施した。また、コロナ感染の疑いや関連する理由で勤務が難しい状況が発生し、職務免除の適応など臨機に対応した。

5. ガバナンス

円滑な組織運営の為、下記の会議、委員会運営を適宜行った。

(1) 理事会、評議員会、監事監査

- 5月29日 監事監査 元年度事業報告・決算状況確認
6月 9日 理事会 元年度事業報告、決算、定時評議員会の招集等
6月26日 定時評議員会 計算書類、財産目録の承認、理事の選任
9月18日 理事会 補正予算
11月10日 監事監査 元年度中間事務監事監査
11月20日 理事会 中間事務監事監査報告、評議員会招集事項、規定改定等
1月26日 理事会 補正予算（文書開催）
3月23日 理事会 令和3年度事業計画、当初予算、人事案件等

・監事監査前には会計監査法人による往査を実施し、監事に報告した。

(2) 経営会議

月1回、理事長が開催。経営方針を検討する場とし、毎回前月迄の稼働率および事業進行管理、経営分析等を行った。また、必要に応じて臨時の会議を開催した。

(3) 施設長会

月2回開催。経営会議決定事項の周知、全体調整、情報の共有化を進めた。感染防止の為、出先事業所にはオンラインでの会議参加も可能とした。

(4) 防災管理委員会

法人の消防計画に基づき開催した。

(5) 安全衛生委員会

法令に則り、法人全体で月1回開催し、職場の安全衛生向上を進めた。年度途中からオンライン開催を実施し、感染防止、業務効率化を図った。

(6) 虐待防止委員会

法人全体で月に1回開催し、虐待防止に係る情報提供・共有を進めた。事業所単位ではそれぞれの状況に合わせ適宜委員会を開催した。

(7) コンプライアンス委員会

今年度2回実施した。法人内の事業の法令遵守状況の検証、組織活動の適正化を進めた。

(8) リーダー会

法人内リーダーの全体調整、情報の共有化を目的に月一回開催予定であったが、新型コロナ感染防止対策のため集合会議が開けず、メールや電話連絡などで取り組みを進めた。年度末にはオンライン会議も試行した。

6. 研修

- (1) 研修委員会により、支援介護技術の向上、人権意識の定着、モチベーションの向上、職員の定着化が進むよう研修内容を検討した。
- (2) 外部研修については各分野ともコロナ禍のため開催予定が中止となるものも多かった。年度後半ではオンライン研修へ切り替えられ、多くの職員が参加することができた。研修参加の新しい方法として、オンライン研修は今後も活用する。
- (3) しなふく向上発表会・研修報告会をオンラインで実施し、法人内の情報共有を進めた。

7. 地域交流事業

地域交流事業として、10月に「しなふく紅葉フェスタ」、3月に「ボランティアの集い」を予定したが、新型コロナウイルス感染防止のため中止した。

8. 防災

法人防災計画に沿って防災訓練・教育及び防災設備点検など実施した。法令に基づき法人内各事業所において、毎月、避難、消火等の防災訓練を実施し、年に1回以上震災想定訓練を実施した。

9. 広報

法人広報紙「しなふくニュース」を地域、利用者に発行し、職員向けに職員報「風よ～」を発行した。

また、法人ホームページの充実を図るため地域福祉課を中心にホームページ検討員会を立ち上げ検討を行った。

令和2年度 法人研修事業報告

1. 総括

社会全体が人材不足の状態の中、介護・福祉業界はさらに職員採用が困難な状況が顕著な傾向が続いている。当法人においても人材確保、育成はもとより、「定着」が大きな経営課題となっている。事業の継続性を担保するためにも次代を担う人材育成、施設サービスの質的向上を目指し、各職員への階層別研修、新任時の研修を強化した。法人全体で人権擁護研修を実施、その他、新任、階層別研修においても利用者の権利擁護、サービス検証の内容を盛り込んできた。また、同様の外部研修にも参加し、参加者がその内容を他者に周知することを確実に行ってきた。令和2年度は、新型コロナウイルス感染症の影響で、外部研修については中止や規模縮小になることが多かった。定期的に研修委員会を開催し、コロナウイルス感染症対策の観点からオンライン形式や規模を縮小して開催する等、試行錯誤しながら、新しい生活様式に沿った研修の在り方を検討し、実践した。

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
しなふく向上発表会・研修報告会	各施設が取り組んでいるサービス向上の内容を発表し合い、相互に研鑽し合う。 また、法人を代表して外部研修を受講した職員が、内容を他の職員に共有する。	全職員	R3年 3月中 (オンライン形式)	全職員

(2) 階層別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
新任職員研修	法人職員としての意識、誇りを醸成するとともに、基本的な知識や技術の習得を目指した。仕事での目標構築を側面援助する	令和3年度採用職員および令和2年度中途採用の職員	令和3年3月23日～3月27日（金）	26名
新任職員現況報告会及び新任職員研修	各事業所で職務の習得が進み、仕事を任されるようになってくる時期に同期職員と現状を確認する機会とする。 試用期間終了の時期に行う。	令和2年度採用職員および令和元年度中途採用の職員	令和2年9月1日～25日 (個人ワーク形式)	30名
初級職員研修	2・3年目を迎える後輩指導が出来るような話術、行動の意識付け、さらに法人理念を再確認する。	採用2, 3年目の職員	中止	
中級職員研修	中堅職員としての組織での役割を明確に意識づけ、資質の向上を図る。	採用後5, 6年目の職員	R2年10月 7日（水）	18名
特別上級職員研修	10年間の経験を振り返り、将来に向け、自己変革の契機とする。 研修企画を通じて、関係調整等全部をプロデュースする。	採用後10年目の職員	令和2年10月中 (オンライン形式)	27名
リーダー候補者及び初級リーダー研修	リーダー候補者および初級リーダーとしての役割、意識を醸成し、現場を預かる役割としての意識付けと育成を図る。	リーダー候補者及びリーダー昇任3年以内の者	令和2年8月21日（金）	4名
管理職養成研修	管理監督者候補としての役割、意識を醸成し、育成を図る。	全リーダー職	令和2年11月6日（金）	20名
リーダー研修	自信をもって部下の育成や市道をできるよう、外部講師を招聘して実施する。	全リーダー職	令和3年1月12日（火） (オンライン形式)	30名

中途採用職員研修	年度中途の職員を対象に組織体制及び研修体制を学習し、法人の理念及び介護技術等の基礎的な内容の習得を目標とする。	令和2年度中途採用の職員		
非常勤職員研修	品川総合福祉センターの職員の一員として法人の理念を理解し、チームスタッフとしてそれを意識した行動ができるようになる。	非常勤職員	中止	
管理者研修	品川総合福祉センターの管理者として、テーマに沿った内容を習得、共有することを目的とする。	全管理職	中止	

(3) 技能研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
メンター研修	新規職員の相談役としてのメンターの役割や傾聴技術を学び、新人が職場に馴染み、独り立ちできるように支援する。	メンター担当等	令和2年5月1日～20日 (各施設ごとに実施)	15名
救急法研修	対象者の支援や介護を行う場面において、緊急時に必要な動きをとれるよう学ぶことを目的とする	各事業所指名職員	中止	
特別研修	感情コントロール研修 職員より「学び」の要望として挙がった内容を実施する。	前年度、参加していない職員	令和3年1月14日(木) (オンライン形式)	13名

※介護技術研修は各事業所ごとに現認研修として行い、外部職員オープン参加とした。

(4) 目的別研修

研修名	目的	対象者	期日	参加人数
人権擁護研修	法人として全体共有が必要な「権利擁護と人権」の演題で講演。 人権を理解し、虐待のない職場環境を構築する。	全職員	R2年11月27日(金) (集合及びオンライン形式)	全職員
福祉施設の看護師研修	健康支援室を中心に、各事業所看護師が専門職としての意見交換や情報共有をもとに業務の統一化を進める。	本部健康支援室専任看護師及び各事業所看護師		個人研修として実施

(5)自己啓発・資格取得支援

- ・職員の資格取得を推進した。
- ・職員のスキルアップに向け専門機関、行政等が主催する研修に参加を推進した。

(6)その他

- ・関係機関の人権研修に精力的に参加し、参加者は必ず職場へ内容を周知した。
- ・各事業所の現任研修において利用者の権利擁護の検証を必須とした。
- ・介護プロフェッショナルのキャリア段位制度については継続検討とした。

令和2年度 地域福祉課事業報告

1. 総括

令和2年度の地域福祉課は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、地域交流事業をはじめ各種サークル活動も一部を除き中止となった。外出できない利用者には、生活を楽しむことを考え、本部を中心としたミニバザー・工作・寄贈のお菓子をワゴンに乗せゲームを行いながら、楽しんでもらうことができた。

さらに、コロナ禍の中、沈んだ気持ちを少しでも明るくなる様に、撮影や空間コーディネートを行っている「E A S E」イーズさんとの調整をし、本部1階ロビーを装飾して頂き、ディスプレイの力で、利用者他の来館者に喜んでもらった。

また、広報活動の実施に努め、しなふくニュースの発行、ホームページのリニューアルを検討した。

一方では、法人後援会の円滑な活動のために事務局としての役割を担った。

2. 事業内容

(1) 各種教室

新型コロナウイルス感染拡大防止のため、一部を除き中止とした。

手話講座・手話舞踊は、会場を八潮在宅サービスセンターに変更して、感染予防を徹底して行った。

〈各種教室実績〉

事 業 名		実施回数	講師 (ボランティア)	延人数	登録者数	実施曜日・時間
ルク サ	絵画教室	中止	伊藤喜代美	0	1 3	第三日曜日 14:00～16:00
	生花教室	中止	山田繁子 (休憩)	0	8	第二日曜日 13:00～15:00
	手話サークル手話舞踊	4	森 みつえ	8 3	3 6	第一日曜日 13:00～15:00
計		4		8 3	5 7	
令和2年度計		4		8 3	5 7	
令和元年度計		4 4		5 7 8	8 5	

(2) 地域交流事業

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止となった。

① 《しなふく紅葉フェスタ》 中止

日 時 10月25日（日）午前10時30分～午後2時30分

場 所 品川総合福祉センター1階ロビー（模擬店・作品展示）

駐車場（ステージ・模擬店）

かもめ園庭（ガーデンカフェ）

内 容 コンサート（利用者、ボランティア参加、）施設紹介パネル展示、セン

ター利用者の手作り作品展示及び販売、模擬店

② 《地域行事参加》

地域において開催予定の行事は、八潮美化運動を除き中止となった。
八潮美化運動では、実行委員として地域貢献に努めた。
また、目黒街角クリスマスのイベントに初めて参加した。

- 5月 「八潮ファミリー運動会」 中止
- 7月 「八潮連合自治会主催：八潮まつり」 中止
- 8月 「八潮北地区避難所まつり」 中止
- 9月 「品川区社会福祉協議会主催：ふくしまつり」 中止
- 12月 「品川区障害者週間：記念のつどい」 中止
- 12月 目黒街角クリスマス「E A S E」主催 作品販売・ブチレーブパン販売
- 3月 八潮美化運動 法人より10名参加

(3) 《地域開放事業》

認知症カフェ「オレンジカフェしなふく」は、新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止となった。

『オレンジカフェしなふく』 中止
日 時 毎月第三水曜日 午後2時～午後3時30分
場 所 品川総合福祉センター 1階 喫茶しなっぺ
内 容 法人内、各在宅介護支援センターよりケアマネジャーが相談支援やお話し相手となる。

(4) 福祉啓発・教育

① 《子どものつどい》

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止

③ 《青少年体験ボランティア2020》

品川ボランティアセンターの事業である、青少年体験ボランティア活動の受け入れに協力して行ってきたが、新型コロナウイルス感染拡大防止の為中止となった。

④ 《ボランティアのつどい》

当法人で活動しているボランティアに感謝し、さらに充実したボランティア活動を推進するために、開催にむけて準備をしていたが、新型コロナウイルス感染拡大予防の為中止となった。

日 時 令和3年3月6日（土） 午前11時～午後1時30分（中止）
場 所 きゅりあん7階イベントホールA・B

④ 《教育機関からのボランティア体験学習・見学の受け入れ》

新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止

⑤ 《ボランティア講座の実施》
新型コロナウイルス感染拡大防止の為、中止

(5) 広報活動

〈しなふくニュース〉(年4回 各1, 800部発行 No.143～No.146)
品川総合福祉センターの広報紙「しなふくニュース」の編集、発行を行った。

〈ボラボーラ〉(隨時 400部発行)
平成7年12月から、八潮団地向けミニ情報(B5サイズ1枚)として発行。
内容は、お知らせ、ボランティア募集等。

(6) 募金活動

- ・赤い羽根共同募金の街頭募金が中止になり、募金活動の一環としてミニバザーを行い売り上げと職員の協力により募金を行った。
- ・東日本大震災復興支援募金

(7) その他 〈器具・器材などの貸し出しサービス〉

地域行事・関係機関などに対して、地域交流の一環として協力。
綿あめ機、ポップコーン機、焼き鳥機、かき氷機、餅つきのセット、テント、
椅子、長テーブル、音響装置、車椅子、他。

(8) 事務局活動

① 後援会事務局

- ・後援会役員との連絡調整
- ・幹事会、総会の開催
- ・会費、寄付金、募金箱などの会計処理
- ・後援会ニュース年2回発行
- ・その他必要な事務

② 連合家族会事務局

- ・連合家族会役員との連絡調整
- ・その他必要な事務

4. ボランティア

ボランティアの受け入れ窓口として、施設とボランティアとの連絡調整をした。

〈ボランティア活動実績〉

[注] 人数・延べ日数は、月の合計を12か月分集計したもの
新型コロナウイルス感染拡大予防の為活動を縮小及び活動中止

施設	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	人数	延べ人数	人数	延べ人数	人数	延べ人数
かえで荘	3	5	193	275	210	339
かもめ(身体)	0	0	71	101	72	113
かもめ(知的)	10	10	157	233	177	402
さつき	0	0	0	0	0	0
サンかもめ	22	39	46	80	58	108
八潮在宅サービスセンター	41	151	274	699	299	853
大井在宅サービスセンター	108	373	226	676	246	502
中延特養	18	24	366	676	409	660
中延在宅サービスセンター	0	0	273	703	285	731
福祉工場しながわ	0	0	0	0	0	0
心身障害者福祉会館	102	170	204	311	229	361
八潮南特養	11	132	34	304	25	264
大井三丁目高齢者憩いの場	0	0	181	259	165	183
地域福祉課	67	118	253	296	281	316
合計	382	1022	2278	4613	2456	4832

令和2年度 かえで荘事業報告

1. 総括

今年度の稼働率について振り返ると、年度の前半は新型コロナウィルス感染症の影響により、入所調整が予定より遅れたり、感染者が出た関係で入所を停止したりして、数字に影響がでた。しかし、10月以降は入院者や退所者が少なく安定しており、上半期の平均稼働率が96.3%であったものが、下半期には平均稼働率が99.8%と目標稼働率を大きく上回り、年間平均で98.0%と高い稼働率を達成することができた。

新型コロナウィルス感染症対策を強化するために、介護士や看護師だけでなく、その他の専門職も一丸となって、日々の観察を丁寧におこない、異変への早期発見、早期対応に努めたことが、他の感染症の発生予防にもつながったのではないかと思われる。残念ながら7月に新型コロナウィルス感染症の陽性が職員で1名発生してしまったが、二次感染はなく、その後も発生なく経過した。

また、管理部門では、入所調整の打合せを定期的におこない、入所の方向性と現状の把握に努め、稼働率の数字を意識しながら調整業務をおこなった。

職員状況に関しては、看護師の常勤採用が進まず、派遣看護師で対応せざるを得ない状況のため、事業所の運営（収支）に影響を及ぼしている。採用に関しては総務と連携しながら進めたが、この状況を改善することができなかつた。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (令和3年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	3	8	28	29	14	82

・平均要介護度 3.6 (平成30年度 3.5) (※一時入所含む)

利用者のうち要介護度3・4・5の利用者が85%を占める。

<年齢> (令和3年3月31日現在 単位：人)

	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	2	0	1	3	3	6	0	15
女	0	2	1	10	20	32	2	67
計	2	2	2	13	23	38	2	82

・平均年齢 88.8歳 (令和元年度 88.4歳)

・最低年齢 65歳 最高年齢 104歳

(2) 稼働率

令和・平成 年度	2年度	元年度	30年度
利用率 (%)	98.0	96.3	94.0

3. 援助計画

(1) 機能回復訓練

機能訓練指導員として作業療法士を配置。利用者の機能状態の評価を行い、多職種協働で個別機能訓練計画を作成、機能訓練を実施した。ショートステイを含む全利用者を対象に集団体操を開始したが、利用者の機能レベルにばらつきがあり、フロアによって参加者が難しい状況であった。定着には、利用者のニーズをあらためて分析し、体操の難易度の調整や各フロアに合わせた実施方法の検討が必要だと思われる。

＜機能回復訓練実施状況＞ (令和3年3月31日現在 単位：延人数)

令和・平成・年度		令和2年度	令和元年度	30年度
内 容	歩行訓練	163	99	138
	立位バランス	145	112	58
	極超短波療法	0	0	0
	上半身機能訓練	832	845	999
	下半身機能訓練	5	5	3
	生活リハビリ	17, 257	17, 743	17, 904
合 計		18, 402	18, 807	19, 102

(2) 余暇活動

サークルのほとんどがボランティア主導のものであったため、ボランティア不在によりサークル活動がほとんど出来なかった。そのため、個別ケアとしての対応や集団体操、5階フロアでのレクレーションの実施を職員主導でおこなった。料理サークルは管理栄養士が中心となり実施し、例年とは異なる形となった。

(3) 行事

① 月例行事

定例でおこなっていた近隣へのショッピングセンターへの外出や外食、遠出などがほとんど実施できなかった。しかし、代行で買い物をおこなったり、緑道公園や屋上など近隣への散歩をしたり、食の楽しみである出前食等は定期的に開催した。その他、屋内で行える集団体操やレクレーション、料理サークルは出来る限り実施した。

② 年間行事

コロナウィルス感染症のまん延防止のため、年間の行事のほとんどを縮小したり、内容を変更したりしたが、想定していたよりもできないことの方が多かった。しかし、利用者の生活に潤いをと考えながら工夫をして行事をおこなった。

(4) 利用者の健康管理

昨年度に比べると、大幅に入院者(延べ人数)、入院延べ日数が下回っている。入退院を繰り返していた方が数名いたが、検温を毎日するなど感染対策の強化により、観察する意識が高まったと思われる。

今後も早期発見、早期対応に努め、日々の健康管理と持続的観察の強化を図っていきたい。

<入院状況>

年度	入院延べ人員(人)	入院延べ日数(日)	平均入院日数(日)
令和2年度	80	1, 160	14.5
令和元年度	113	1, 483	13.12
30年度	145	2, 352	16.22

(5) 食事

他職種間での情報、データ共有または会議を行い、栄養ケアマネジメントと利用者の栄養管理、給食管理に努めた。また、職員の現任研修で食中毒予防と食事介助の実技演習についての研修を実施した。施設での余暇支援の一環、食の楽しみとして、コロナ禍でも季節を感じていただけるよう料理サークルを実施した。

日々の食事については、委託業者を含め給食会議で食事環境の改善を検討し、安全な食事提供を推進するなど、給食委託業者との連携も良好であった。

<食事形態の状況>

(令和3年3月31日現在、入院者除く実人員)

年度	ペースト食	きざみ食	あらきざみ食	経管栄養	一般食
令和2年度末	13	26	26	7	9
令和元年度末	11	26	28	7	10
30年度末	11	22	31	5	7

4. 会議・研修

(1) 研修

毎月1回現任研修を開催し、法令上必要な研修や知識の習得を目的とした研修を中心に行った。外部研修では、コロナウィルス感染症の関係で開催中止となるものも多く、予定していたものへの参加が出来なかった。しかし、後半からオンライン研修も増えて、同じ研修を複数名で参加できたというメリットもあった。

(2) 会議

感染防止のため職員会議については、1回当たりの時間を短縮したり、人数制限したり、回数の調整をしたりと不規則な形となった。その分、少人数でおこなう役職会議やフロアーメETINGを定期的に開催した。

(3) 委員会活動

サービスの向上と職員の資質の向上を目的に、サービス向上委員会・事故防止委員会・身体拘束適正化委員会・感染症対策委員会・褥瘡予防委員会・医療的ケアの安全対策委員会と、介護の基本である排泄、入浴、口腔、食事に関する担当を組み合わせて定期開催日を固定して実施した。元年度は3ヶ月に1回のサイクルでしたが、2年度は2ヶ月に1回と短くした。委員会活動が活発化し、職員の意識が少しづつ変わり、組織としての体制づくりが一歩進んだ。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウィルス感染症のまん防止のため、家族との面会を制限せざるを得ない状況となった。かえで荘においては、緊急事態宣言の期間と感染者発生時期を除き、予約にてリモート面会を中心に開催した。また、例年行っている家族会の開催も見送る形となった。

<面会状況>

令和・平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
面会者件数	99件	2,906件	2,044件
面会延べ人員	115人	3,497人	2,933人

(2) ボランティア

今年度は新型コロナウィルス感染症予防のため、ほとんどのボランティア活動を中止している。

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	0	0	その他	2	10
理美容	0	0	令和2年度計	2	10
園芸	0	0	令和元年度計	37	264
行事	0	0	平成30年度計	34	351

(3) 実習生

福祉事業を支えるマンパワー育成に協力するため、実習生を積極的に受け入れる体制をとっていたが新型コロナウィルス感染症の予防のため、法人の指示により、受け入れ制限をした。今年度は実人員2人（昨年度4人）、延べ日数は12日（昨年度78日）。介護系専門学校からの実習1校のみ。

(4) 地域社会との交流の推進

法人が主催する地域交流事業をはじめとするほとんどの行事が中止となった。また、地域の保育園等との交流も一度もできなかった。コロナが落ち着いたら、八潮北・東大井保育園との定期的な交流を再開し、共生社会の一端を担っていきたい。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

5月にケアマネ向けにアンケートを実施した。要望の中から、送迎、アクティビティー、フロア環境整備について改善した。また、送迎（入退所とともに）については、4月から家族付き添いなしを徐々に進めた。しかし、定期利用者が少なく、緊急ショートの受け入れで空所の穴埋めをしている状況が実態であった。

(2) 利用実績

令和・平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
延べ日数	1,508日	1,584日	2,210日

(3) 稼働率

令和・平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
利用率 (%)	69.2%	72.2%	109.1%

7. 防災

防災計画に基づき、センター内各施設が持ち回りで指揮者となり、毎月1回の総合防災訓練と年2回のBCP（事業継続）訓練を実施した。9月に八潮地区総合防災訓練に参加。八潮学園の学生と車椅子利用者が避難訓練に参加した。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

修繕・改修関係	機械浴槽、乾燥機、洗濯機、加湿器の修繕・改修
備品購入関係（介護関係）	乾燥機、吸引器、ワゴン、センサーベットなど

令和2年度 品川区立中延特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

新年度に新規採用職員4名を配置し、退職者もなく職員の欠員が生じなかつた。職員が定着することにより、チームに一体感が生まれ、各フロアで行うケアの質の向上に対する取り組みにも、全員で考え実践すると言う意識が高まり、好影響が出ている。また、全員が新卒採用だったが、介護実習終了後よりアルバイトとして現場経験を積み、職員採用へと繋げたため大きな混乱もなく年度替わりを乗り切ることが出来た。転倒等の事故については検証を行い再発防止に努め、そこから次のケアへ繋げることが出来るよう取り組んだ。

目標稼働率は収支状況を考慮し 96%に設定した。新型コロナウイルス感染症の影響により入院することが困難な状況となったこともあり入院の長期化が防げ、97.7%と言う結果を出すことが出来た。また、感染症予防対策として臨時の補助金も交付されたため、車両、介護用センサー等の備品の購入も実施することができた。

看取り介護については、事業所の日常のケアとして定着している。今年度は6名の利用者に対応した。「最後の最期までその人がその人で在り続けること」を念頭にケアを行い、看取り介護を行うことが職員の利用者対応力の成長に繋がっている。

ケアの向上を目指し、「食べたい物が食べられるために」「自分の力で行う事への支援」の2つのテーマに対し取り組みを行い、施設ケア研修の実践報告会及び、法人内しなふく向上研究発表会で報告を行っている。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (令和3年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	申請中	合計
利用者数	3	5	24	32	15	0	79

・平均要介護度 3.6 (令和1年度 3.7)

利用者のうち要介護度3以上の利用者が89.9%を占める。

<年齢> (令和3年3月31日現在 単位：人)

	~69	70~74	75~79	80~84	85~89	90~99	100~	計
男	0	0	2	3	3	4	0	12
女	0	1	3	10	18	29	6	67
計	0	1	5	13	21	33	6	79

・平均年齢 90.1歳 (令和1年度 90.5歳)

・最低年齢 74歳 最高年齢 105歳

(2) 稼働率

平成(令和)・年度	2年度	1年度	30年度
稼働率 (%)	97.7	93.8	94.1

3. 援助計画

(1) 日課・週課

心身の状態変化に応じてきめ細かく担当者会議を行い、多職種間での情報共有と意見交換を重ね、個別ケアを意識したケアプランを立案しサービス提供へと繋げている。居室担当者の役割の強化、モニタリングの適切な実施を行い、ご本人の望まれる暮らしに近づける実践につなげていった。

(2) 機能回復訓練

日常生活の中で、利用者自身の持てる力を発揮し、身体機能の維持向上を図るために自然と身体を動かすことを生活リハビリと位置づけて実施した。マッサージ師、理学療法士によるリハビリ計画に基づき個別の訓練を中心に実施し、一人ひとりの機能維持、向上に努めた。感染症対策によりリハビリ室の使用を控えた時期もあったため、各フロアにて集団リハビリを実施している。

<機能回復訓練実施状況>

(単位：人)

平成(令和)・年度		2年度	1年度	30年度
内 容	歩行訓練	202	227	270
	立位訓練	250	413	519
	端座位訓練	65	174	173
	温熱療法(極超短波・ ホットパック)	13	66	165
	四肢体幹機能訓練	742	2,214	1,293
	生活リハビリ	37,797	38,530	38,058
	集団リハビリ	626	0	72
計		39,695	41,624	40,550

(3) 余暇活動

感染症対策もあり、ボランティアの協力を得る事が困難な状況となり活動を制限せざるを得なかった。園芸サークルについては園芸療法研修会の指導のもと、職員主導で実施した。近年、力を入れていた個別外出が実施出来ない替わりに、ホーム喫茶を復活させ、楽しみに繋げることが出来た。

(4) 行事

① 月例行事

お花見、敬老会、バイキング食事会など季節感のある行事を企画し、食事メニューにも工夫を重ね、利用者に喜んでもらえるよう、各階单位で企画・実施し、施設職員との距離感を縮める工夫をした。

② 年間行事

中延複合施設の全体行事『くつろぎ祭り』『餅つき』は館内行事に変更し、入所者と職員が楽しむ1日をテーマに開催し、大好評であった。

(5) 利用者の健康管理

施設内の感染症は発生せず、入院者も減少している。しかし、後期の入所調整名簿から入所した6名のうち、3名は入所直後に長期の入院となっている。

<入院状況 単位：人・日>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
2年度	70	1, 008	14.4
1年度	109	1, 433	13.1
30年度	77	1, 152	15.0

(6) 食事

委託業者と連携し食事提供を行った。味や盛り付けも安定しており、利用者には好評だったが、食材の調達についてはコスト面で厳しい状況となっている。その他、栄養ケア計画に基づき、医師、看護師、介護士等と連携し、その方にあった食事を提供してきた。また、各種栄養補助食品等を活用し、可能な限り経口摂取を行っている。

<食事形態の状況>

(実人数)

	ベースト食	極きざみ食	きざみ食	粗きざみ食	常食	経管栄養
2年度末	12	8	20	28	5	2
1年度末	10	8	21	30	5	2
30年度末	5	11	24	27	7	4

4. 会議・研修

(1) 研修

ケアの質の向上、職員のスキルアップのために、品川福祉カレッジや東京都主催の権利擁護研修等、各種の研修に参加した。感染症の影響により、今年度は集合研修への参加が難しく、オンライン形式の研修となつたが、パソコンの通信に慣れる機会にもなった。また、新人職員向けに社会人・介護職員としての基本事項を中心に、毎月の現任研修を実施した。

(2) 会議

サービス担当者会議・フロア会議等を必要に応じて、随時および定期的に開催した。特にサービス担当者会議は、短時間でも細かく丁寧に行ない、随時ケアを見直した。また、原則リーダー全員参加による「役職者等連絡会」を月に2回程度開催し、様々な情報共有と意見交換、ケア方針等の確認を行つた。

(3) 委員会活動

定例会議と連動して指針に基づき、事故防止、感染症予防、身体拘束廃止、床ずれ予防、看取り、虐待防止、サービス向上等の各委員会を随時開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

感染症の影響により、事業説明会、懇談会を中止している。入所者の近況を伝えるため、写真を用いた手紙（個人ごと）を定期的に送付している。

<面会状況>

平成(令和)・年度	2年度	1年度	30年度
面会延べ人員	252人	4, 946人	6, 132人

(2) ボランティア

新型コロナウイルスによる感染症対策としてボランティアの受け入れを休止したが、入所者と接触のない、テラスの手入れを園芸療法研修会のボランティアに、自宅で行える裁縫作業を糸の会のボランティアに依頼した。

<ボランティア活動状況>

活動内容	実人員	延べ人数	活動内容	実人員	延べ人数
サークル関係	0	0	行事	0	0
余暇活動	0	0	その他	2	2
介護士業務補助	0	0	令和 2 年度計	70	896
傾聴	0	0	令和 1 年度計	70	8
園芸	2	19	平成 30 年度計	112	803

(3) 実習生

実人員 23 人 (昨年度 37 人)、延べ日数は 195 日 (昨年度 362 日) の実習生 (介護福祉士・社会福祉士・栄養士・看護師等) を受け入れた。介護福祉士養成校の実習生 (令和 2 年度卒業生) 3 名は当事業所で採用している。

(4) 地域社会との交流の推進

感染症予防対策により、地域との交流事業は休止している。

6. 短期入所生活介護事業

(1) 実施概要

①定員 10 名②居室 2 階 (2 人部屋 1 室・個室 2 室) 3 階 (2 人部屋 1 室・個室 4 室)

(2) 稼動実績

平成(令和)・年度	2 年度	1 年度	30 年度
延べ日数	3, 279 日	3, 329 日	3, 431 日

(3) 稼働率

平成・年度	2 年度	1 年度	30 年度
稼働率 (%)	89.8	91.0	94.0

申し込み数は平均 25・6 件と目立った変化は無かったが、感染症の影響でキャンセルが若干生じた。職員の短期入所生活介護事業に対する理解が進み、緊急利用については出来る限り受入を行うことが定着している。

7. 防災

防災計画に基づき、毎月 1 回の防災訓練及び震災想定の訓練を実施した。近隣住民との合同防災訓練は今年度は中止している。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等

建物設備、備品類の経年劣化が目立ち、修繕や購入を進めている。

修繕・改修関係	非常放送設備・自動火災報知設備 (区工事)、厨房空調工事
環境整備関係	感染予防用パーテーション
備品購入関係	介護用ベット、リフト車両、温冷配膳車 2 台

令和2年度 品川区立八潮南特別養護老人ホーム事業報告

1. 総括

令和2年度は、4月の緊急事態宣言に始まり、新型コロナウィルス感染症の対応に追われた1年だった。施設内においては、消毒や換気に努め、フロアを跨いで行われる行事は取りやめ、フロアごとに実施した。利用者の健康管理にも注意を払ったが、体調不調に対し、通院や救急対応の判断に迷うことも多々あった。職員もプライベートも含めた感染予防、健康管理を実施したが、1月に職員1名の感染者が発生した。すぐにフロアのゾーニング、濃厚接触者、フロア職員のPCR検査を実施し、それ以外の感染拡大はなく終息した。新型コロナウィルス感染症はまだ予断を許さない状況で、利用者ご家族にも面会自粛や制限をお願いしながら、職員は緊張と不安の中での業務が続いている。

そのような中で収支改善を目指し、稼働率向上に向けて生活相談員、各専門職、フロアリーダー等が連携して対応したが、年度前半は目標稼働率を維持したが、後半は入院者が相次ぎ、年間を通じては目標達成することはできなかった。

研修については、前半は新型コロナウィルス感染症のため研修中止、延期が続いたが、後期はリモートでの研修が増えた。月1回の現任研修も集合研修から書面での研修に切り替え、内容も入院理由に多かった誤嚥性肺炎の予防を取り入れる等臨機応変に実施した。

職員配置では、必要な職員数不足が続いており、派遣職員を活用している。また、ショートステイ相談員が体調不調となり、フロアリーダーに相談業務を少しづつ移行した。

ショートステイの稼働率については、稼働率の低迷が続いており、近隣の在宅介護支援センターへのアンケートを行った結果、希望者自体が減少傾向であり、ショートステイの居室を特養入所の居室に転換することを品川区とも協議をした。令和3年度に実施予定としている。

2. 利用状況

(1) 利用者状況

<要介護度> (令和3年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	1	9	29	29	13	81

・平均要介護度 3.5 (令和元年度 3.6) (※一時利用含む)

・全利用者のうち要介護度3以上の利用者が87.6%を占める。

<年齢> (令和3年3月31日現在 単位：人)

性別年齢	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	0	2	4	7	8	0	21
女	0	3	0	6	19	29	3	60
計	0	3	2	10	26	37	3	81

・平均年齢 89.6歳 (令和元年度 89.6歳) ・最低年齢 72歳 ・最高年齢 103歳

(2) 稼働率

平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
稼働率 (%)	92.6	93.1	93.1

3. 援助計画

(1) 日課・週課

利用者本位の姿勢を重視し、利用者自身が生活の中で力を発揮できるよう支援しているが、食事や日常の基本的な介助が増加し、食事時間を利用者本位の時間に合わせて実施することが難しくなっている。また、入浴では機械浴対応が多く、介助の負担も大きくなっている。

(2) 機能回復訓練

- ① 新型コロナウィルス感染症対策として、これまで一対一で対面での機能訓練を中心に行っていた利用者も、集団体操の訓練をプログラムの中に取り入れた。集団での体操が難しい利用者や、ストレッチ・関節可動域訓練・介助下での筋力訓練が必要な利用者は、居室や食堂で換気を行い、時間を10分程度に制限しながら訓練を実施した。
- ② 活動性の高い方には、座位での四肢の屈伸運動(集団での体操を含む)、手すりや平行棒を使用した立ち上がり動作訓練を中心に実施し、ベッドで過ごす時間の長い方は、四肢・体幹の筋力訓練と、他動運動・ストレッチ訓練、臥床姿勢や座位姿勢の調整(ポジショニング)を実施した。
- ③ 動作の介助(特に起居・移乗動作)では介護士と機能訓練指導員が協同で動作の評価を行った。立ち上がる前に足を引く、体幹を前傾させてから立ち上がるといった、「身体機能を維持するための介助」に取り組み続け、また、これまでできていた動作が難しくなった方へは、本人と介助者の双方に負担の少ない介助方法を検討し、実施した。
- ④ ショートステイでのリハビリの強化を図り、食前の体操を今年度も引き続き実施した。計136回実施、延べ参加人数708人。

<機能回復訓練実施状況>

(延人数)

平成・年度		令和2年度	令和元年度	30年度
内 容	歩行訓練	26	22	44
	立位バランス訓練	89	103	101
	上肢機能訓練	1,114	1,131	1,082
	下肢機能訓練	1,326	1,681	1,795
	体幹機能訓練	778	791	972
計		3,333	3,728	3,994

(3) 余暇活動

これまででは随時団地内の散歩や買い物等を行ってきたが、今年度は外出を伴うことはできず、フロア内での対応となった。その中で、アロマを使った足浴等できることを行った。

(4) 行事

新型コロナウィルス感染症予防の為、施設として計画しながらも、フロア単位で季節の行事を実施した。8月の花火はグランドで吹上花火を中心に行い、利用者はベランダから楽しむ等、どの行事も感染防止を念頭にやり方を工夫した。地

域の保育園との交流はできなかったが、八潮学園から利用者全員にクリスマスカードをいただく等関りは継続している。

(5) 利用者の健康管理

総括リーダーを要として、看護師、医師、介護士が連携して対応した。新型コロナウィルス感染症の状況により、早めの対応を心掛けたが、通院のタイミングを計ることが難しかった。医療のひつ迫により、すぐに入院ができなかったり、早めに退院してきたりすることもあった。利用者のPCR検査は年間延19名が実施している。入院理由としては誤嚥性肺炎が多かった。看取り対応は4名行い、2名は継続中。その都度家族との話し合い、嘱託医、病院との連携を行った。インフルエンザの感染者はいなかった。

<入院状況>

年度	入院延べ人員	入院延べ日数	平均入院日数
令和2年度	96	1, 679	17.5
令和元年度	100	1, 264	12.6
30年度	112	1, 635	14.6

(6) 食事

献立は旬の食材や季節メニューを取り入れ、月に一度の選択食も継続して実施した。また、高齢者で課題となりやすい便秘や皮膚トラブル予防のため、喫食率を考慮した食材選びや献立作成をした。具体的には、人参・南瓜の使用を多くすること、苦手な方の多い緑の野菜は洋食にすることなどである。体重低下がみられる方には早めに主食や栄養補助食品で栄養量を調整し、体重低下の防止や安定した栄養状態が維持できるように努めている。

<食事形態の状況>

(実人数:人)

	ペースト	極刻み	刻み	粗刻み	一般食	経管栄養
令和2年度末	13	21	28	6	10	3
令和元年度末	15	13	27	11	5	5
30年度末	18	17	21	11	5	3

4. 会議・研修

(1) 研修

法人の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都社会福祉協議会の研修等へ参加した。年度当初は新型コロナウィルス感染症のため研修延期、中止が続いたが、後期はリモートでの実施が増えた。参加機会としては人員不足で不十分な状況が続いている。現任研修は書面開催がほとんどとなった。

(2) 会議・委員会活動

役職者連絡会、委員会活動（事故防止、身体拘束廃止、感染症対策、褥瘡予防、虐待防止）等のほか、隨時ケースカンファレンスを開催した。会議、委員会活動については、感染状況により参加人数を絞り込んだ。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウィルスの感染予防のため面会自粛をお願いし、事前予約と場所、時間制限を設けて実施できたのは3か月程度だった。利用者と家族が会えない期間が長期にわたったため、利用者の生活状況や写真等を定期的にお知らせすることに努めた。ご家族も状況を理解し、協力的であった。

<面会・外出状況>

平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
面会延べ人員	534人	4,903人	7,410人

(2) ボランティア

新型コロナウィルス感染症予防の為、一般のボランティアの受け入れは中止し、非常勤職員のボランティア活動のみとした。

<活動状況>

(延べ人数)

平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
ボランティア	142人	312人	264人

(3) 実習生

実人員1人（昨年度1人）、延べ日数は10日（昨年度10日）の実習生（栄養士）を受け入れた。

(4) 地域社会との交流の推進

地域開放事業は新型コロナウィルス感染症のため中止となった。体育館は施設内で導線が交わるため年間を通じて貸出中止、グランドもトイレが施設内利用となるため中止としていたが、新年度は近隣施設を利用することで再開予定となっている。

地域の総合防災訓練は中止となったが、美化運動は実施され参加している。

6. 短期入所生活介護事業（ショートステイ）

(1) 実施概要 ・定員19名 居室 1階多床室（4人）4部屋・個室3部屋
利用申し込みが減少しており、緊急利用も積極的に受けたり、在宅介護支援センターへの営業も実施したが、目標稼働率に到達することができなかった。

(2) 利用実績

平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
延べ日数	4,215日	4,702日	5,189日

(3) 稼働率

平成・年度	令和2年度	令和元年度	30年度
稼働率 (%)	60.9	67.6	74.8

7. 防災

防災センター（ビル管理業者に委託）と連携し、毎月1回フロアを跨がない形で、放送、連絡訓練・避難誘導・消火活動等の防災訓練を複合施設として実施した。

8. 施設管理・環境整備・備品購入等（開設10年経過）

修繕・改修関係	空調機軸受け交換工事、立体炊飯器等厨房設備、食器洗浄機、車両モーター交換、衣類乾燥機、トイレ扉部品交換等
備品購入関係	離床センサー、ステリPRO大型噴霧器、パルスオキシメーター、洗濯機、乾燥機買い替え、エアマット、車いす等

令和2年度 グループホーム八潮南事業報告

1. 総括

継続して「共に生活する」ことを意識し、買い物から食事作り、洗い物までの流れを分担して行う予定でいたが、新型コロナウィルス感染症の関係で、買い物については職員主体で実施し、利用者にはメニューを決めてもらい、食材を切る・調理するところを行ってもらった。また、買い物や外出ができない分、近くの散歩などはマスク装着で実施し、品川体操等を行って筋力が低下しないよう努めた。室内にいる事が増えたため、キッチンカーを呼んだり、季節行事や誕生日会に力を入れ、書道は師となる利用者に定期的に実施してもらうことで、利用者の楽しみに繋がるようにした。

事故については、大きなもので転倒による骨折が1件あった。それ以外に、服薬関係が11件、離設が8件発生した。その他、ひやりはっと報告を含む事故報告は74件であった。事故報告についてはその都度ユニット中心に検証をし、特に服薬については、確認するタイミングや方法を再確認し再発防止に努めた。

感染症については、新型コロナウィルス感染症の関係で、消毒や換気を強化し、多量に加湿できる加湿器を購入することで、食堂などの大きな部屋も管理できるようにした。新型コロナウィルス感染症にかかる利用者や職員はいなかつたが、発熱や体調不調、濃厚接触者との接触などの理由で、利用者2名、職員5名がPCR検査を受け、いずれも陰性であった。また、職員に対し、品川区2回、東京都1回のPCR検査が実施され、全員陰性であった。面会もご家族に協力していただき、窓越しの面会や直接の面会も制限付きで実施した。

入居者状況としては、令和2年度は3名の退去、3名の入居があった。退居理由について1名が事業所内でのご逝去（看取り）、2名は療養型への移行であった。また、12月と1月に退去された部屋の新入居については、新型コロナウィルス感染症の関係で、入居調整の面接ができず入居まで時間がかかる利用者もいた。

職員関係においては、疾病により夜勤を行えない職員が2名おり、夜勤ができる職員への負担が増加した。しかし、超過勤務については、職員一同で業務の見直しを行い削減に努めた。

稼働率については、骨折による入院1名と疾病による入院数名が長期となってしまった。また、新型コロナウィルス感染症も原因の1つとなり、後半の退去後の空床期間が開いてしまったことが稼働率低下に繋がった。

(1) 利用者状況

<要介護度> (令和3年3月31日現在 単位：人)

要介護度	1	2	3	4	5	合計
利用者数	3	5	5	4	1	18

・平均要介護度 2.72 (令和元年度 2.8)

<年齢> (令和3年3月31日現在 単位：人)

	～69	70～74	75～79	80～84	85～89	90～99	100～	計
男	0	0	1	1	2	2	0	6
女	0	2	0	6	1	3	0	12
計	0	2	1	7	3	5	0	18

・平均年齢 84.5 歳 (令和元年度 85.0 歳) ・最低年齢 72 歳・最高年齢 95 歳

(2) 稼働率

年度	令和2年度	元年度	平成30年度
稼働率 (%)	92.4	94.0	95.8

2. 援助計画

(1) 日課・週課

新型コロナウィルス感染症の関係で、買い物などは職員主体で行ったが、メニュー決めや調理を中心に行ってもらった。また、散歩以外の外出も控えたことで、品川体操など実施し、筋力の維持に努めた。地域との交流は新型コロナウィルス感染症の関係で実施していない。

(2) 行事

新型コロナウィルス感染症の関係で地域との交流ができなかつたので、キッチンカーを呼んだり、お花見、ゆず湯、お正月、節分、ひな祭りなどの季節行事に力をいれて実施した。

(3) 利用者の健康管理

新型コロナウィルス感染症の関係で、嘱託医（内科・精神科医）や訪問看護と連携して健康管理を行った。また、必要な方には、訪問歯科を依頼している。

(4) 食事

毎日の食事は入居者の意見を聞き、調理、片付け等を、入居者・職員と共にしている。買い物は新型コロナウィルス感染症の関係で職員が実施している。入居者の誕生日には、好きなものをリクエストしてもらい、店屋物等も活用し、楽しみのひとつとなっている。また、身体の状態に応じて、飲料にとろみをつける、ミキサーにかける、介護食を取り寄せるなど、食べやすく工夫して提供している。

(5) 入浴

利用者の重度化に向けて、入浴用キャリー（機械浴）を設置し、お湯に浸かれるようにしている。（品川区補助金使用）

3. 会議・研修

(1) 研修

新型コロナウィルス感染症の関係で、法人主催の職員研修、品川福祉カレッジ、東京都認知症介護実践者研修他、人権研修や認知症については、リモート研修を利用して参加している。

(2) 会議・委員会活動

毎月1回の職員会議のほか、サービス向上委員会として認知症ケアについて取り組んだ。身体拘束適正化委員会、虐待防止委員会も定期的に実施した。新型コロナウィルス感染症の感染者が多い時期については、人数を制限して実施している。また、定例の運営推進会議を奇数月に計6回開催しているが、新型コロナウィルス感染症の関係で、作成資料を関係者に郵送することで開催とし、グループホームの生活状況を知らせている。

4. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウィルス感染症の関係で、事業説明会は中止し、資料郵送にて事業経過報告などを行った。また、面会についても、直接対面の面会は制限付きで実施し、感染者が多い時期は窓越しの面会に協力して頂いている。リモート面会用にiPadとWi-Fiを設置し、次年度に向けて準備している。運営推進会議においても関係者へ資料郵送にて開催とし、集まっての開催は中止している。

(2) ボランティア

新型コロナウィルス感染症の関係で、中止している。

(3) 実習生

実人員4人（昨年度2人）、延べ日数15日（昨年度10日）の実習生（介護福祉士）を受け入れた。新型コロナウィルス感染症の関係で、前もって体調管理の件を学校に伝え、実習期間中は自身の行動記録をとってもらっている。

(4) 地域社会との交流の推進

新型コロナウィルス感染症の関係で、団地内の行事も中止となり、散歩以外の外出は控えてもらった。

5. 防災

新型コロナウィルス感染症の関係で、防災センター（ビル管理会社に委託）と連携しつつ、特養やユニットを跨がないようにし、毎月1回の防災訓練を実施した。

6. 施設管理・環境整備・備品購入等（開設10年経過）

修繕・改修関係	食堂の畳の張替え
備品購入関係	入浴用キャリー（機械浴用）、 新型コロナウィルス感染症対策（加湿器2台、iPad、Wi-Fiルーター設置）

令和2年度 品川区立中延在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- ① 個別対応を重視し「必要な人に必要なサービス」を提供できるよう、その見極めをする力を付けることに重点を置いた。ケアの基となるアセスメント力を向上させるため外部研修を活用し必要なスキルを身につけ、研修参加者が中心となり個々のケース検討に活かすことが出来た。必要なサービスの内容は様々であるが、利用者の意欲や身体機能の向上に大きな影響があった。そのため家族の介護意欲も向上し、介護負担の軽減にも繋がっている。
- ② 認知症対応型通所介護では、様々な BPSD(認知症周辺症状)のある方を受け入れてきた。「その人を否定することなく、その人自身を人として受け入れる」姿勢を持ち、新たな利用者には、まずは通所することを第一目標にサービスを開始している。通所介護同様、利用者を知ることに努め、適切かつ必要なアセスメントを行い、通所介護計画を作成し、チームケアを実践した。
- ③ コロナ禍でのサービス提供となるため、無理な通所は勧めず安全を第一に考えた事業運営に努めた。
- ④ 上記の結果、緊急事態宣言発出時や感染者増加に合わせて稼働率も激減したが、徹底した感染症対策やご家族への丁寧な連絡、介護支援専門員との連携により、感染症定期に回復させ、年度後半に向けて増加させることが出来た。
- ⑤ 一般デイサービスにおいて指定を受けている共生型生活介護については、当年度の受入実績はなかった。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ) R3.3.31 現在

	令和2年度			令和1年度			平成30年度		
	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症	一般	総合	認知症
合 計	5,279	2,048	1,803	5,211	2,642	1,902	5,723	1,907	2,093
実 施 日 数	308	308	308	309	309	309	307	307	307
1日当たり利用者数	17.1	6.6	5.9	16.9	8.6	6.2	18.6	6.2	6.8
稼 働 率	73.2%		48.8%	78.3%		51.3%	76.2%		56.5%

・登録者数内訳（要介護度別・人）

R3.3.31 現在

	一般デイサービス						認知症対応デイサービス											
	2年度			1年度			30年度			2年度			1年度			30年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象	1	3	4	0	3	3	0	5	5	—	—	—	—	—	—	—	—	—
要支援1	1	9	10	2	11	13	2	14	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要支援2	8	14	22	7	12	19	5	11	16	0	0	0	0	0	0	0	0	0
要介護1	9	22	31	8	11	19	6	21	27	2	8	10	0	7	7	0	4	4

要介護 2	7	13	20	3	8	11	5	12	17	0	2	2	1	1	2	1	3	4
要介護 3	4	14	18	3	10	13	1	8	9	1	5	6	0	3	3	0	3	3
要介護 4	3	6	9	0	3	3	1	4	5	0	3	3	0	2	2	1	4	5
要介護 5	0	1	1	0	1	1	0	1	1	0	3	3	0	3	3	0	2	2
合 計	33	82	115	23	59	82	20	76	96	3	21	24	1	16	17	2	16	18

- ・目標稼働率を一般デイは81%、認知症デイを60%としたが達成できなかった。

*定員：一般デイ35名、認知症対応型デイ12名

- ・男性の利用者が微増傾向。総合事業利用者の登録者は微増だが、緊急事態宣言に合わせ、利用を控える方が目立った。
- ・利用終結の理由として、ご逝去の方が多く見られ、施設入所は減少していた。
- ・新規利用の方は、入浴サービスを中心に、必要最低限の回数に留める方が多くいた。

(2) 介護保険外サービス（訪問給食/通所サービス）

訪問給食サービス、通所サービス（入浴・給食）共に該当者はいない。

3. 援助経過

年間プログラム

行事名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5月4日（月）～5月8日（金）	91
くつろぎ祭り	10月10日（土）	24
外出行事	中止	
ゆず湯	12月21日（月）～12月25日（金）	119
Xmas会	12月25日（金）	45
餅つき	12月26日（土）	17
新年会	1月4日（月）～1月9日（土）	177
豆まき大会	2月2日（火）	27

- ・外出行事は中止。その他も縮小が続いたため、栄養士等、併設事業所スタッフの協力も仰ぎ、日々のプログラムでイベント的要素を盛り込み、通所の意欲に繋げた。
- ・くつろぎ祭り、餅つきについては、館内行事に変更し「利用者と職員が楽しむ1日」をテーマに開催した。小規模で実施したが、利用者には好評だった。

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 連絡ノート等を活用し家庭での様子・利用中の状況を互いに把握するよう努めた。
活動状況については、写真を多用し利用者の状況が詳しく伝わる事を意識した。
- (2) ボランティアの受入れは休止している。
- (3) 祭礼行事や防災訓練等、地域の方との交流は中止している。
- (4) 地域開放事業としての「くつろぎ祭り」「もちつき」は中止している。

5. 「身近でトレーニング」利用者数実績

2年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	計	1年	30年
実施回数	—	—	—	14	13	13	12	13	11	12	12	12	112	132	192
登録利用者数	—	—	—	33	33	33	38	38	38	38	38	38	327	424	683
延べ利用回数	—	—	—	118	85	100	143	144	119	130	140	137	1,116	1,360	2,110

4～6月はコロナウイルス感染予防のため休止

令和2年度 品川区立八潮在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- ① 新規利用や増回、変則的な利用希望等にもできるだけ添うようにし、ケアマネージャーとの連携にも努めた。
- ② 新型コロナウイルス感染拡大に加え、新型コロナウイルス感染防止のため、デイサービスを新規に利用される方の激減と、長期欠席者や、利用回数の多い方の入院・施設入所・ご逝去等が稼働率に大きく影響を及ぼした。
- ③ 八潮団地の特性として、エレベーターの無い住居が多く、階段の昇降が難しくなった場合には施設入所になってしまいやすいケースが多い。八潮地域のみでだけでなく、隣接のエリアの事業所に営業をかけている。また、この数年間総合事業の利用者が増えており積極的に受け入れている。
- ④ 介護予防事業である「マシンでトレーニング」については、次年度4月開始の申し込みは通常の2倍以上の申し込みがあり抽選となっている。
- ⑤ 職員体制については疾病により休職になった職員が1名おり現在も休職中。年度途中に紹介事業者より1名非常勤介護士を採用した。
- ⑥ リハビリについては安定し実施できている。リハビリ利用されている方の身体機能の維持が図られている。

2. 利用者状況 (1) 介護保険サービス

年間利用者数及び稼働率（一般、総合事業・予防、対象外）

	令和2年度			令和元年度			平成30年度		
	一般	総合	対象外	一般	予防	対象外	一般	予防	対象外
男性	1,196	424	0	1,454	493	0	1,916	356	0
女性	2,606	1,370	0	3,801	1,312	0	4,524	762	0
合計	3,802	1,794	0	5,255	1,805	0	6,448	1,118	0
実施日数	305	305	0	305	305	0	307	307	0
1日の人数	12.7	5.9	0	17.2	5.9	0	21.0	3.6	0
稼働率	56.8			71.2			75.7		

登録者数内訳(要介護度別 R3.3月現在)

	一般デイサービス								
	令和2年度			令和元年度			30年度		
	男	女	計	男	女	計	男	女	計
事業対象者	2	5	7	2	2	4	1	2	3
要支援1	1	6	7	1	5	6	3	6	9
要支援2	2	12	14	2	11	13	3	14	17
要介護1	3	8	11	6	9	15	5	7	12
要介護2	1	6	7	3	3	6	3	16	19
要介護3	8	6	16	6	5	11	5	10	15

要介護 4	0	2	2	0	3	3	6	4	10
要介護 5	1	4	5	1	3	4	2	3	5
合 計	18	49	67	21	41	62	28	62	90

(2) 介護保険外サービス（訪問給食／通所給食）

	令和 2 年度	令和元年度	平成 30 年度
食数	813	1,280	1,541
実施日数	307	307	307
1 日あたりの利用者数	2.7	4.2	5.0

3. 援助経過

新型コロナウイルス感染拡大により例年実施していた外出行事については全て中止となつた。

変わり湯として、5月のしょうぶ湯。12月のゆず湯は季節を感じていただくことを目的に例年通り実施。また、8月にはバラ湯を行い利用者の方々には大変好評であった。

4. 家族、社会との関わり

- (1) 家族へは連絡ノートや電話による状況報告を実施している。また、支援センターにも適宜、連絡・報告をして連携を図っている。
- (2) 介護者教室は新型コロナウイルス感染予防のため自粛指示により中止となつた。
- (3) ボランティアは、新型コロナウイルス感染予防のため受け入れを中止となつた。
- (4) 地域開放事業として、「カフェぽっかぽか」を7月・2月。12月に「クリスマスコンサート」を実施予定であったが、全て新型コロナウイルスのイベント自粛の指示により中止となつた。

5. 介護予防事業

「マシンでトレーニング」の利用者は、コロナウイルス感染防止により区内全事業所が前期については7月より全24回のところ10回へ変更。後期は定員10名で実施。年間では延べ347人の利用となっている。

6. 防災

毎月支援センターと合同で防災訓練を実施した。年2回「サンかもめ」と、例年3月実施の「八潮わかくさ荘」も含めた総合訓練は新型コロナウイルスの感染予防のため実施できず。

7. 設備関係

特殊浴槽の交換。厨房の業務用冷蔵庫の故障により交換。

令和2年度 品川区立大井在宅サービスセンター事業報告

1. 総括

- ① 一般通所介護では、感染症への罹患を恐れ利用控えや新規の登録が伸びず、目標稼働率に届かない結果になった。
- ② 認知症対応型通所介護では、目標稼働率は達成したもの的新規利用者の登録が伸びなかつた。
- ③ 作業療法士が退職し、後任が見つかるまで時間がかかりリハビリ重視の目標を達成出来なかつた。
- ④ 年度末に近隣の通所介護事業所の理学療法士とともに、新しいプログラムである<転倒予防エクササイズ>を考案し、職員皆が利用者に指導できるように訓練を積んだ。
- ⑤ 趣味活動の充実、要介護対象者には楽しんで行えるリハビリ体操を提供し、本人や家族のニーズに対し、きめ細やかな対応に努めた。
- ⑥ 認知症軽度者プログラムについては、職員が研修を受講した後、職員間で情報を共有した。当センターでは認知症対応型通所介護があり、通所介護とのシームレスな移行が可能であり、認知症の方もそうでない方に対しても、その方が持っている可能性に対して、一番適切なサービスとケアを実践した。
- ⑦ 認知症対応型通所介護では、引き続き身体機能能力の高い方を対象とし、残存機能の活用のため趣味活動の充実と、利用者の願いを活かした活動を目指した。また、身体能力の維持のため散歩等を実施し、筋力維持に努めた。
- ⑧ 稼働率向上のため、リーフレットの刷新をするとともに事業内容宣伝のため、インターネットを活用したFacebookやInstagramへの事業内容写真の掲載を継続した。

2. 利用者状況

(1) 介護保険サービス

・年間利用者総数および稼働率(一般デイ・予防デイ・認知症対応型デイ) R3.3.31 現在

	令和2年度			令和元年度			平成30年度		
	一般	総合事業	認知症	一般	総合事業	認知症	一般	予防	認知症
総計	5,119	2,117	1,673	5,116	1,383	1,698	5,470	1,468	2,588
実施日数	308	308	308	309	309	309	265	265	307
1日当たりの利用者数	16.7	6.9	5.4	16.6	4.4	5.5	20.6	5.5	8.4
稼働率(%)	63.1%		48.1%		65.1%		46.1%		80.2% 51.8%

・登録者数内訳（要介護度別）

R3.3.31 現在

	一般デイサービス							認知症対応型デイサービス							
	2年度			元年度			30年度		2年度			元年度			
	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計	男	女	計
要支援1	0	3	3	0	4	4	2	6	8	0	0	0	0	0	0
要支援2	5	8	13	4	8	12	3	11	14	0	0	0	1	1	0
要介護1	11	18	29	11	23	34	16	23	39	1	5	6	1	2	3
													2	5	7

要介護2	9	11	20	8	8	16	3	6	9	0	3	3	0	4	4	0	2	2
要介護3	5	13	18	5	5	10	1	2	3	2	3	5	0	3	3	0	2	2
要介護4	3	4	7	3	2	5	1	4	5	0	3	3	1	2	3	0	2	2
要介護5	0	1	1	0	1	1	0	1	1	1	2	3	1	1	2	0	0	0
事業対象者	2	4	6	1	5	6	0	3	3	0	0	0	0	0	0	0	0	0
申請中	6	8	14	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
合計	41	70	111	32	56	88	26	56	82	5	18	23	3	13	16	2	12	14

- ・契約者人数は増えているが、週複数回利用の方が減り、稼働率が昨年比で一般デイが1. 9%減少、認知症デイが2. 0%増加した。
- ・一般デイは横ばい、総合事業は大幅増、認知対応型デイは減少している。
- ・年度途中で事業方針を変更し、午後の活動のゲームを廃止し、集団体操プログラムである「転倒予防エクササイズ」を2月から開始した。

3. 援助経過

年間プログラム

行 事 名	開催日	参加人数
菖蒲湯	5月4日(月)～5月8日(金)	約110名
ゆず湯	12月21日(月)～12月25日(金)	約110名
節分	2月2日(火)	25名

4. 家族、地域社会との関わり

- (1) 電話、連絡ノート等を活用し介護士・看護師が家族等と密に連絡を取るように努めた。
- (2) 利用中の御家族への事業者説明会と、認知症通所介護においては実施されるべき運営推進会議はコロナ禍で書面開催とした。

5. 介護予防事業

参加者の低迷から、事業を休止している。

6. 防災

毎月1回定期的に火災想定訓練又は地震想定訓練を行い、年に1回、高齢者住宅わかくさ荘との合同避難訓練を実施した。また、消防署職員の立ち会いをしていただいた。

7. 設備関係

- ・建物や備品等の老朽化に対しては、給湯管の交換、自動水栓の交換を行った

令和2年度 在宅介護支援センター事業報告

1. 総括

- (1) 地域包括支援センターの機能 ア) 総合的な相談窓口・権利擁護機能 イ) 介護予防マネジメント ウ) 包括的・継続的マネジメント 等について、品川区高齢者福祉課と連携し、一人ひとり丁寧に対応してきた。特に盛夏には高齢者の熱中症の予防策として、水分補給の重要性を伝えると共に必要に応じ経口補水液を配付しつつ、個別の状況把握に努めた。
- (2) (地域型) 在宅介護支援センターとして、各地域に生じている福祉ニーズを把握し個別相談を進めるとともに、総合的な地域福祉力の向上を図るよう関係機関と連携した。特に医療機関や民生委員との関係向上を図り、認知症サポーター養成・見守りネットワークの構築などのほか、防災関係の情報提供や、緊急時の不安を解消できるよう地域づくりに力を入れた。
- (3) 居宅介護支援事業所として、高齢者が住み慣れた地域で生活を継続できるよう、利用者・家族に対して適切なアセスメントを実施した。そのことに基づき、一人ひとりに対して公正中立で利用者本位のケアマネジメントを実施した。
- (4) 認知症高齢者の対応や高齢者虐待の防止および成年後見制度の活用等について、適切な支援につながるよう高齢者福祉課や各関係機関とも連携を図った。また、入退院時のサービスに関する連絡調整・施設入所に関する相談や手続き代行など、在宅生活の継続や適切な施設利用につながるよう調整に努めた。
- (5) 八潮・大井第二・中延在宅介護支援センターに区の指導検査が入ったが、大きな指摘もなく検査を終えている。4在支管理者中心に行われた、業務の標準化をはじめ、合同で行っているケアプランチェックにおける一定の成果が上がったと思える。

2. 地域づくり等

コロナ過にあって、地域づくりは大きな制限がありほとんど実施が出来ていない状況であった。4在支共通では、地区ケア会議は年間で5回のみ実施。7回は区の決定により中止としている。また、認知症サポーター養成講座は、近年間2回ほど行えたが、認知症サポーターレベルアップ事業は行っていない。

3. 支援経過（支援実績）

支援内容

相談内容	元年度	延 件 数			
		八潮	中延	大井	大井第二
相談内容	利用者宅訪問	2, 009	2, 991	1, 754	2, 168
	計画書配布	701	1, 041	632	700
	利用票配布	1, 672	1, 947	1, 310	1, 539
	担当者会議	478	830	545	595
	担当者照会	152	202	0	152
	モニタリング	3,351	4859	2, 681	3,426
	医療連携	31	73	5	5

	退院退所面談	4	5	3	1
	小規模多機能連携	2	0	0	0
	連絡・調整	2, 296	5, 575	3, 105	2, 845
	ターミナル訪問	0	0	0	0
					2, 168
合 計		10,696	17, 523	17, 523	11, 431

夜間、休日相談

給付管理件数 (令和2年度)

	件数		
	夜間	休日	合計
八潮	17	0	17
中延	2	3	5
大井	1	1	2
大井第二	4	3	7

	件数		
	介護給付	予防給付	総合事業
八潮	1,733	992	782
中延	1,888	1,392	1,145
大井	1,085	547	571
大井第二	1,478	733	651

令和2年度 かもめ園(知的障害部門)事業報告

1. 総括

利用者の退所について、医療的ケアが必要となったため1名が有料老人ホームへ入所となり、1床が空床となった。引き続き、利用者の状況は、高齢化や障害の重度化が進み、日常生活での介護や医療的な対応が必要な状況が増加した。そのため年度末にフロア編成を見直し、2階北側を女性棟として介護の充実化を進めた。

日中の活動はより個別活動を重視し、感染状況に応じて外出を行う等楽しめる企画を実施した。みかん狩り行事については感染に注意しつつ、少人数グループで福祉タクシーを活用した。また、現地でも他者と触れ合わないように実施した。夏の納涼会、冬のクリスマス会についても利用者と職員のみで小規模ながら実施した。

インフルエンザ、ノロウィルス、その他の感染症は発生していない。新型コロナウィルス対策として外出、通所、家族の面会等の自粛を行い、感染予防に努めた。館内で過ごすことで利用者のストレスは増加し、活動の中でできる限り精神的な不安の解消や事故等の予防に努めた。

短期入所を対象に東京都福祉サービス第三者評価を実施し、サービスの向上に努めた。また、都内の新型コロナウィルス感染状況もあり、切迫した理由がない限りは利用を控える旨お知らせし、感染対策をした上でサービスを継続した。対応の困難なケースは、支援センター等関係機関と連携してできる限り受け入れた。

2. 利用者状況(令和3年3月31日現在)

(1) 入退所状況

(単位:人)

	性別および事由	合計
入所者	女性 1名 在宅より入所	1名
退所者	女性 1名 有料老人ホーム	1名

(2) 障害区分

(単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	0	0	5	15	6	26
女性	0	0	0	8	7	10	25
合計	0	0	0	13	22	16	51

(3) 年齢別

(単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	90	合計
男性	1	2	6	5	9	1	2	0	26
女性	0	3	3	6	5	4	3	1	25
合計	1	5	9	11	14	5	5	1	51

・平均年齢 男性 56.7 歳 女性 59.4 歳 全体 58.0 歳 (令和元年度 58.0 歳)

(4) 稼働率

令和・平成 年度	2年度	元年度	30年度
利用率 (%)	施設入所	95.1	92.7
	生活介護	88.5	81.8

(5) 関係機関

(単位:人)

品川	大田	江東	葛飾	足立	北	台東	八王子	合計
42	3	1	1	1	1	1	1	51

3. 支援経過

(1) 支援全般

個別支援計画に基づき、利用者個別の自立した生活を目指し支援した。特にもの作りなどの活動で個性を發揮していくことや、行事や外出、旅行など、生活中での楽しみを拡大していくように支援した。また、さつきへの通所など、個人の力をより発揮できるよう支援を進めた。職員2人～3人の複数担当制とし、医務、給食等、多職種と連携した。高齢化や身体状況の変化により通院や入院等、医療的な対応等も多く、健康管理とともに、日常のすごし方や活動について見直した。

(2) 生活介護日中活動

①課題別活動(小グループ)

引き続きリサイクル、調理、創作活動（ものづくり）を行なった。リサイクル活動は、感染症予防としてペットボトル回収等難しく、園庭の掃除や牛乳パック切り等を行った。調理活動は、ボランティアの受け入れを中止し、職員2名で利用者からの意見を元に軽食やデザートを調理した。創作活動（ものづくり）は、季節に応じた装飾や壁掛け、花や自然の造形や立体的な作品を作成し、行事などの飾りに生かし、利用者主体となって行事を行った。

②課題別活動(個人)

各利用者の好みの活動（買い物・創作・喫茶・調理・ビデオ等）を設定し、職員とマンツーマンでかかる時間とし、利用者の希望によって職員2名でドライブを行う事をした。限られた時間であるが利用者にとって楽しみであり、社会生活を支援する重要な活動として継続した。

③全体活動

4月：新人紹介を兼ねた花見、5月：マクドナルド祭り、7月：ミスターードーナツ祭り、9月：牛丼祭り、3月：園庭で花見等を実施。園庭等の屋外活動を企画し、多くの利用者が参加し楽しんだ。

④他のサービスを利用

サンかもめ、第一しいのき学園（生活介護）、さつき（就労継続支援B型サービス）へ日中に通所した。通所時に不穏になり定時の送迎車に乗ることができない方もいたが、通所先事業所と連携し、本人の意思を尊重し対応した。通所先の各種行事等にも、本人の意向により参加した。

利用人数

（単位：人）

	さつき	第一しいのき学園	サンかもめ	合計
男性	2	0	2	4
女性	4	1	2	7

(3) 施設入所支援

散歩や、理美容などの外出の他、季節に応じた生活行事やレクリエーションなどを企画実施した。食事形態、排泄の支援等について、加齢や状態の変化等に的確に対応できるよう、方法を検討し実施した。入浴は、生活リズムを整え健康の維持に配慮し、夜間入浴を継続して実施した。

(4) サークル活動

（単位：人）

実施回数(年間)	参加人数(延)
----------	---------

コーラス	0 回	0
生花	4 回	38
茶道	11 回	131

(5) 行事

(単位：人)

行事名	実施日	内容	参加人数
お花見	4/12	新年度顔合わせ。観桜	52
納涼会	7/12	焼きそば、かき氷、他	52
バイキング食	年 3 回	希望献立に因る会食	47
遠足	10～12 月	小グループのみかん狩り	52
クリスマス食事会	12/24	イベントに合わせた食事	51
送別会	3/20	年度末納会	51

新型コロナウィルス感染症予防に伴い多くの行事が実施出来なかった。

(6) 健康管理

看護師 2 名体制となり医療ケアを十分に行える環境を整えた。定期健康診断、インフルエンザ予防接種等を実施し、健康の維持と疾病の早期発見に努めた。インフルエンザ、ノロウィルス、その他の感染症は発生していない。新型コロナウィルス対策として外出、通所、家族の面会等の自粛を行い、施設内で感染の拡大はなかった。在宅酸素 2 名（内 1 名は年度中に解除）、胃ろう 1 名の医療的な対応について、家族、病院等と連絡を取り、可能な限り対応した。利用者の状態の変化は、主に看護師、支援員が連携して状況を把握し、精神科医師に適宜相談した。特に家族への説明等も丁寧に行なった。新型コロナウィルスの対策として、面会、外出等とともに通院についてもできるだけ自粛し、外部との接触による感染予防を徹底した。

通院・入院・嘱託医受診。

(単位:人)

	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	12	3	10	20	9	13	18	5	11	13	7	11	132
入院	0	0	0	0	0	0	0	1	1	1	1	0	4
受診	8	24	11	25	20	22	41	36	8	17	14	9	235

(7) 給食

希望献立、状態に応じた形態で食事提供した。給食会議にて献立の内容や課題を検討し、事業者と調整を行なった。毎週水曜日に選択食を実施した他、バイキング食（年 3 回）は、「好きなものの盛り合わせ弁当」「秋の味覚」「デイズニー」等のテーマで実施した。普段食べることがない食材もあり、好評だった。

特別食支給状況（疾病・年齢・身体機能に対応した特別食）

(単位:人)

刻み食	粗きぎみ食	角食	ペースト食	制限食 1400cal	制限食 1600cal
11	9	4	2	3	4

(8) サービス点検調整委員会

新型コロナウィルス感染予防の為、利用者ヒヤリングは実施出来ず、施設報告を実施した。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価の利用者ヒヤリングを受審し、サービス向上に取り組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

新型コロナウィルス感染予防の為、1月は文書の開催を実施した。

(11) サービス向上委員会

「利用者の人権、生活を守るためのチェックリスト」を定期的に実施し、自己評価を行った。同時に業務の振り返りを行ない、意見交換をした。

(12) 虐待防止委員会

定期的に虐待防止委員会を開催し、利用者の人権を重視し適切なコミュニケーションを図り、支援の向上を目指した。また、身体拘束（ベッド柵や拘束ミトン）が必要か検討し、可能な限り拘束を減らせるよう進めた。

4. 研修・会議

(1) 研修 法人研修計画に基づき、人権研修その他研修に参加した。

(2) 会議 職員会議、ケース会議、生活会議、給食会議、役職会議を開催

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

新型コロナウィルス感染予防の為、感染状況に応じて1階多目的室での面会をし、また定期的にご本人状況報告のお手紙を送付した。

(2) 地域交流

新型コロナウィルス感染予防の為、未実施。

(3) ボランティアの協力

年度途中から新型コロナウィルス感染予防の為、受け入れを中止にした。

6. 短期入所事業(定員3名)

東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービスの向上に努めた。

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	4	3	4	6	6	5	6	9	6	8	8	9	74
女性	2	0	2	6	6	6	8	7	6	4	4	4	55
児童	1	1	2	1	2	1	1	1	1	0	0	0	11
計	7	4	8	13	14	12	15	17	13	12	12	13	140
利用日数	37	36	43	48	80	66	81	89	60	57	66	70	733
年間平均稼働率	令和2年度 66.9%						年間平均稼働率 令和元年度 161.8%						

7. 防災

法人の防災計画に従い防災訓練、事業継続計画（B C P）訓練を実施した。

品川区防災課より、福祉避難所の備蓄物資を預かり保管している。

8. 環境整備・備品購入

地下1階浴室のライナーリフトを新規購入した。

令和2年度 かもめ園（身体障害部門）事業報告

1. 総括

利用者の身体状況の変化に伴いリクライニング式ベッドと床走行式リフトを整備し、利用者に快適な生活と職員には安全な支援が出来るよう改善した。

新型コロナウイルス感染症について、職員のPCR検査を実施し、感染予防の意識強化し、結果、利用者と職員の感染症の発生は無かった。また、外出・外泊・面会について制限を設け、利用者や家族にも協力を要請した。直接面会ができない時期は、ICT機器を導入しリモート面会を推奨し実施した。

生活介護では、6階ではマスク関連の新商品を多く考案し好評を得られ、利用者の生産活動意欲が向上した。また、3階では感染予防に考慮し、新しい生活様式を取り入れた過ごし方や行事の開催を実施した。防犯カメラを設置した事で、事故分析ができ対策を講じる事が出来た。

東京都福祉サービス第三者評価の利用者調査を受審し、サービス向上に努めた。

短期入所は、東京都福祉サービス第三者評価を受審し、サービス向上に努めた。また、支援センターの依頼に対し緊急利用に柔軟的な受け入れを実施した。他区からの利用も引き続きあり、ニーズに応えた。

2. 利用者状況（令和3年3月31日現在）

(1) 入退所状況 (単位人)

	性別及び事由			合計
入所者	男性 1名 女性 1名 在宅より入所			2名
退所者	男性 1名 療養型病院			1名

(2) 障害区分 (単位:人)

	区分1	区分2	区分3	区分4	区分5	区分6	合計
男性	0	1	4	4	6	10	25
女性	0	0	5	3	8	7	23
合計	0	1	9	7	14	17	48

(3) 年齢別 (単位:人)

年代	20	30	40	50	60	70	80	合計
男性	1	1	6	6	6	3	2	25
女性	0	1	4	9	4	4	1	23
合計	1	2	10	15	10	7	3	48

・平均年齢 男性 58.0歳 女性 58.8歳 全体 58.4歳 (令和元年度 57.8歳)

(4) 積働率

令和・平成 年度	2年度	元年度	30年度
利用率 (%)	施設入所	95.1	92.7
	生活介護	88.5	81.8

(5) 関係機関 (単位:人)

品川	中野	足立	江戸川	江東	町田	合計
43	1	1	1	1	1	48

3. 支援経過

(1) 支援全般

利用者一人ひとりの個別ニーズを汲み取るため個別面談を年2回実施し、個別支援計画に反映させた。個別支援計画の実行は、個別支援の時間を活用し、利用者本人のニーズに応えられるようにした。

(2) 生活介護日中活動

①生産活動

能力、適性に応じて2つのグループに編成し、工賃を支給した。昨年に引き続き、手作りマスクの作成とマスク関連の商品等の作成を手掛けた。

参加人数 (単位:人)

	軽作業	七宝・創作	合計
男性	10	1	11
女性	5	6	11
合計	15	7	22

②療護活動

講師の指導によるヨガビリーや音楽セラピーを実施することが出来なかつたが、職員主導によるリハビリや園芸で育てた野菜等の収穫と創作活動を積極的に行った。

③他サービスの利用

同一法人内の他施設が実施するサービスを利用した。

参加人数 (単位:人)

	男性	女性	合計
就労継続支援 B型さつき	3	2	5
サンかもめ	0	1	1

(3) 施設入所支援

感染予防から年度当初に計画していた行事や余暇支援の実施が行えない事もあつたが、新しい生活様式を取り入れ、潤いのある生活を目指し支援した。

昨年までの外出支援等が行えず、利用者のニーズに応えるべくデリバリー企画を多く実施した。

(4) サークル活動

(単位:人)

	実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)		実施回数	参加人数(延)
書道	0	0	勉強会	11	203	カラオケ	12	207
料理	7	111	言語	9	150	お出かけ便	0	0
園芸	0	0	パソコン	0	0	デリバリー	38	72

(5) 行事

行事名	実施日	内容	利用者参加人数
しょうぶ湯	5/5	健康と長寿を願い入浴した	全員
七夕	7/7	七夕飾り他	全員

紫蘇ジュース作り	7/23	園芸サークルで育てた紫蘇でジュースを作る	16名
納涼会	8/11	屋上にプールを設置し夏日を楽しむ	7名
ミニドライブ(夏季)	8/11	少人数にて車窓から外の環境を楽しむ	27名
納涼会(夜間)	8/11	駐車場にて花火実施し鑑賞する	32名
ミニドライブ(冬季)	11月～1月	少人数にて車窓から外の環境を楽しむ	30名
そば打ち	11/15	新そばの時期に手打ち蕎麦作りを体験する	25名
クリスマスイルミネーション	12/4～26	駐車場内に装飾を実施し、季節を体感する	18名
クリスマス懇親会	12/13	会食	42名
ビンゴ大会	12/26	お楽しみ会としてビンゴを楽しむ	27名
餅つき大会	12/26	年始用の鏡餅と飾り餅作りを行う	38名
柚子湯	12/20・21	風邪を引かずに冬を越せるよう願い入浴した	全員
新年会	1/1	新年顔合わせを行い新年の抱負を語り合う	全員
初詣	1/1～12	館内にかもめ神社を設置し参拝する	22名
節分	2/2	豆まきを実施し、健康を祈る	31名
映画観賞会	5/5・9/3・2/14	要望の映画を鑑賞する	各16名

新型コロナウイルス感染症に伴い、外出等を伴う多くの行事が出来なかつたため、施設内で工夫を行い新たな企画を実施した。

(6) 健康管理

嘱託医による受診、歯科往診等を定期的に行った。定期健康診断を実施し、インフルエンザ予防接種は42名実施した。インフルエンザや胃腸炎症状の罹患者は0名であった。精神疾患の利用者の情緒不安定があった。重度高齢化に伴い医療機関と連携し、療養型へ移行した方がいた。

通院・入院・嘱託医受診状況(単位人)

日	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	合計
通院	7	6	6	8	4	8	8	5	3	3	3	3	67
入院	0	0	0	2	1	1	1	1	0	0	0	0	6
受診	81	82	80	80	82	81	72	112	81	77	78	81	987

(7) 給食

利用者の咀嚼力の低下から食事形態を1つ増やし提供した。月一回給食会議を実施し、行事食の一つとして年3回のワンプレート式バイキング食事会を企画した。

特別食支給状況(疾病・年齢・身体機能に対応した特別食)(単位:人)

減塩食		制限食 1300Kcal		制限食 1400 Kcal		制限食 1600 Kcal	
9		1		2		4	
常 食	粗キザミ食	角 食	キザミ食	なめらか食	ペースト食	個別対応食	
20	8	9	7	0	4	4	

(8) サービス点検調整委員会

新型コロナウイルス感染予防の為、利用者ヒヤリングは実施出来ず、施設報告を実施した。

(9) サービス評価

東京都福祉サービス第三者評価の利用者調査を受審し、サービス向上に取り

組んだ。

(10) 苦情解決第三者委員会

8月には、事故案件を出した。1月の開催は文書開催となり経過報告をした。

(11) サービス向上委員会

「障害の重度化・高齢化対策」「リスク管理」「医療的ケアと楽しい食事」「虐待予防」のテーマとし、サービスの向上と課題解決に取り組んだ。

(12) 虐待防止委員会

毎月一回職員会議の前半に実施。利用者支援状況の確認を行ない、職員個々の人権意識を高めてきた。

4. 研修・会議

(1) 研修

外部研修として東京都・全国社会福祉協議会・品川区社会福祉協議会等の主催の研修は、リモート研修にて参加した。

(2) 会議

職員会議、ケース会議、役職会議、給食会議、生活会議、生産活動会議を開催した。

5. 家族・地域との関わり

(1) 家族との連携

事業説明会は感染予防の観点から開催することが出来なかった。各家族へ施設から情報発信を積極的に行なった。面会は、直接面会が行えない期間は、リモート面会を推奨し実施した。

(2) 地域交流

区内の多くの各イベントが中止になり、生産活動の作品を販売が出来なかつた。クリスマスイベント1か所のみ職員が参加した。

(3) ボランティアの協力

新型コロナウイルス感染予防の為、受け入れを中止にした。

6. 短期入所事業(定員2名)

利用者実数(人)・延べ利用日数(日)・稼働率(%)

月	4	5	6	7	8	9	10	11	12	1	2	3	利用実数
男性	4	1	3	3	3	3	4	3	4	3	3	5	39
女性	6	1	6	5	5	7	8	7	6	6	6	6	69
児童	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0
計	10	2	9	8	8	10	12	10	10	9	9	11	108
利用日数	52	38	54	68	85	80	89	76	54	69	74	85	824
年間平均稼働率	令和2年度	112.9%								年間平均稼働率	元年度	140.7%	

7. 防災

法人本部の防災計画に従い、防災訓練、事業継続計画（BCP）訓練を行なった。

8. 環境整備・備品購入

環境整備・備品購入	ライナーリフト・施設車両・リクライニング式ベッド・防犯カメラ・体温検知器・床走行式リフト
-----------	--

令和2年度 サンかもめ事業報告

1. 総括

令和元年度末から国内で感染が拡大した新型コロナウィルス対応に終始した1年であった。感染を懸念し年間を通じて欠席された利用者が6名、4、5月は東京都に緊急事態宣言が発出、品川区からの要請により利用者に通所自粛を呼びかけ、稼働は3～40%となった。他の月も利用は安定せず、前年度比16.6%減の69.8%となった。事業も感染防止に向け日課の調整、環境整備を進め、多人数が集結する保護者会等は中止とし、連絡文書を多用した。

今年度はサービス向上委員会で日課、プログラムの見直しをテーマとし、検討、実施した内容をしなふく向上発表会で発表することができた。利用者の社会貢献活動として地域清掃を復活させた。

2. 利用者状況・稼働率(定員30人) 《令和3年3月31日現在》

(1) 年齢構成 (人)

	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～20代	5	3	5	3	5	6
30代	7	9	8	9	7	6
40代	2	1	2	0	2	1
50代	0	1	0	1	0	1
60～70代	3	2	3	2	4	2
平均	39.2歳		38.1歳		38.3歳	

(2) 障害区分 (人)

	令和2年度				
	男性	女性		男性	女性
区分1			区分4	8	4
区分2		1	区分5	5	5
区分3	1	2	区分6	3	4
			合計	17	16

(3) 在所期間状況 (人)

	1年未満	1～2年	2～5年	5年以上	10年以上
利用者数	1	5	2	6	19

(4) 稼働率 (年間平均)

年度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
稼働率 (%)	69.8	86.4	95.0

3. 支援経過

個別支援計画に沿い音楽・リハビリテーション・手芸・紙漉き・散歩などの日中活動や外出活動を通して個々の自己実現が可能となるよう支援を心がけた。また、リサイクル活動、作品展示等利用者と地域をつなぐ活動に力を入れた。

(1) 日中活動による収益（円）＊令和2年3月31日現在

作業	資源回収	その他	合計
収入	13,092	0	13,092

(2) レクリエーション・行事

	内容	回数
外出活動	感染防止のため中止	0回
地域参加行事	行事は感染防止のため中止	0回
レクリエーション	ダンス、歌、調理、創作、スポーツ大会、季節行事（七夕、夏祭り） クリスマス忘年会 納会	50回

(3) 健康管理

嘱託医による応診を毎月1回、健康診断を年1回実施、通所時バイタルチェック、体重測定を毎月1回、インフルエンザ予防接種を年1回実施した。

(4) 給食

サンかもデイ（誕生日リクエスト食：33回）、選択メニュー（12回）、バイキング食（1回）を実施した。また、必要に応じて、食形態の変更や高カロリー食、制限食、代替食、減塩食等の対応をした。

(5) 送迎サービス

30名が送迎サービスを利用した。（内6名が車椅子用リフトを使用）。

(6) 延長支援事業

利用者実数	年間実施日数	年間利用延べ時間	年間送迎利用数
7名	205日	841時間	410回

4. 会議・研修

支援・職員会議毎月2回、モニタリング会議（半年毎）、給食会議毎月1回を開催し、外部研修（福祉カレッジ等）、虐待防止研修、法人階層別研修、法人人権擁護研修等に参加した。（研修はリモート実施が中心）

5. 家族・地域支援（ボランティア・実習生受け入れ）

（1）保護者会、保護者参加行事（クリスマス忘年会）は未実施。

（2）福祉関係実習生3名、定期ボラ（歌、ダンス指導等）3名が活動。

6. 防災

施設防災訓練（避難誘導等）12回（内地震想定6回、館内合同防災訓練2回）

7. 施設管理・環境整備他

空調ファンコイル更新工事実施。空気清浄機、加湿器等導入

令和2年度 品川区立心身障害者福祉会館生活介護事業報告

1. 総括

個別支援計画に沿った支援を強化し、プログラムに個別支援日を設定することで、利用者個々の個性や特性に応じた支援の充実を図った。また、摂食指導医や作業療法士・理学療法士との連携強化を継続したことにより、職員の摂食支援や作業療法・理学療法への理解が更に深まり、日々の支援への意識の向上が見られた。

支援方針としては、障害者相談支援センターと連携した個別支援と、利用者の希望・意向を尊重する支援を継続することとした。また、利用者の障害程度の重度化、高齢化への対応として、内科検診を月4回と、協力医療機関を総合病院とし、医療体制の強化を継続した。また環境整備として、重度の利用者の居室を床暖房とした。

さらに職員配置を増員し、余暇支援の充実を図り、新型コロナウィルス対策を行なながら、季節の行事や個別活動を実施した。新型コロナウィルスの影響で、計画をしていた痰吸引の研修が中止となったが、医療的ケアの利用者を受け入れるために必要な備品の確認をし、サービス向上への準備を行った。利用者支援の質の向上のため、個々の利用者と関わる時間を積極的に増やし、職員個々のスキルアップを図り、事業全体のレベルアップに努めた。

2. 利用者状況

利用人数・稼働率

利用者定員 50名	目標稼働率 86%	月及び年間平均稼働率
年度途中に1名が他施設に移行し、2名が在宅に戻れない状況となり、合計3名が退所している。新入所は、9月、10月、3月に1名ずつ入所している。	4月：50.1% 5月：53.8% 6月：71.5% 7月：74.4% 8月：73.5% 9月：73.6%	10月：75.0% 11月：76.9% 12月：75.8% 1月：71.8% 2月：72.0% 3月：73.8%
		年間平均稼働率 4月から9月 10月から3月
今年度も引き続き、東京都の補助金「重症心身障害者通所事業」により、大幅に収入を上げている。		70.2% 66.2% 74.2%
令和3年3月31日現在の在籍状況：49名	男性 33名 平均年齢：35.8歳	女性 16名 平均年齢：40.5歳
		全体平均年齢 37.3歳

3. 支援経過

- ①体温や血圧等、利用者の健康状態の把握を進め、個別によりきめ細かく配慮した。
- ②リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ③個別プログラムとして散歩、創作活動等をその日の希望により個別に実施した。
- ④全体プログラムとして音楽活動、カラオケ、ビデオ鑑賞等を実施してきた。また、生産活動のプログラムとしてメモ帳作りを実施した。

⑤感覚刺激を利用したプログラム（手浴・足浴、音楽療法、リラクゼーション、読み聞かせ、スヌーズレン等）に重点をおき、実施した。

4. 理学療法(PT)

リハビリ計画書に基づいた理学療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に、生活支援員が理学療法士の指導の下、日常のマッサージ等を実施した。

また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

- ・訓練実施回数 年 39 回 （緊急事態宣言発令の期間 9 回中止している）

5. 作業療法 (OT)

リハビリ計画書に基づいた作業療法士によるグループ単位の機能訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、手指の巧緻性や上肢の運動機能、認知機能等の向上に向けた訓練を実施した。

また、個人のリハビリ計画を作成し、定期的に見直し、評価を行なった。

- ・訓練実施回数 年 30 回 （緊急事態宣言発令の期間 6 回中止している）

6. 音楽療法

講師を招いてミュージックセラピーを実施、音楽に合わせた身体運動により精神的緊張の軽減と情緒の安定、音楽を楽しむ時間を作り、支援の充実を図った。

- ・実施回数 年 20 回 （緊急事態宣言発令の期間 4 回中止している）

7. 摂食指導及び給食サービス

必要な利用者へ、家族、摂食指導医、栄養士、給食業務委託業者、看護師、生活支援員が連携を図り、利用者個々に適した食形態の食事提供及び食事介助方法の検討を行い、サービスの質の向上を図った。

- ・実施回数 年 10 回 （緊急事態宣言発令の期間 2 回中止している）

8. 送迎サービス

必要な利用者へ、車両による送迎サービスを実施した。

- ・利用人数 36 名／49 名 全登録者数中（全員がほぼ往復利用）
(令和 3 年 3 月 31 日現在)

9. 虐待防止やサービス向上への取り組み

毎月 1 回、虐待防止委員会やサービス向上委員会を実施した。また今年度は、第三者評価を受審し、また職員アンケートとして「あなたが感じた他者の不適切ケアや不快な行為気づきシート」と「品川区施設サービス向上委員会作成のセルフチェック」を実施した。その中で、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

令和2年度 品川区立心身障害者福祉会館機能訓練事業報告

1. 総括

機能訓練の目的・機能を明確化し、事業を実施した。実施に際して、医療、障害者相談支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換、情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。また、区内の訪問看護事業所や在宅介護支援センターに対象者の紹介を依頼し、さらに、送迎サービスと訪問型訓練のサービスを開始し、利用者増を図った。

利用日が祝日の時は、振替え利用を促し、稼働率向上に努めた。また、特別支援学校卒業後の利用推進に向け学校に働きかけ、実習生の受入れや利用契約が進むように準備を進めたが、利用には結びつかなかった。訓練内容としては、見学・面接等で1人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からリハビリ計画書の充実を図ると共に、その計画に沿ったプログラムを作り、実効的な内容を提供した。

今年度は、第三者評価を受審、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

2. 利用者状況 利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員 6名	目標稼働率 35%	月及び年間平均稼働率
医療機関ではないため、リハビリが主の目的ではなく、目的達成のための訓練を行う事業所と説明し、了解の元、利用いただいた。	4月： 30.2% 5月： 44.4% 6月： 49.2% 7月： 57.9% 8月： 43.3% 9月： 40.0%	10月： 31.1% 11月： 24.6% 12月： 21.7% 1月： 18.4% 2月： 24.1% 3月： 21.7%
稼働率は年間目標には届かなかつたが、新規で2名の利用者を受け入れ、5月～9月は、年間目標稼働率35%を上回った。後期は、新規利用者ではなく、3名が退所している。	年間平均稼働率 4月から9月 10月から3月	33.9% 44.2% 23.6%
利用者1名を就労移行支援事業所につなげた。また2名が地域の在宅生活となった。	令和3年3月31日現在の在籍状況： 3名	全体平均年齢 53.3歳
男性 2名 平均年齢： 52.5歳	女性 1名 平均年齢： 55歳	

3. 支援経過

- ①リハビリ計画書に基づき、理学療法士・作業療法士による訓練を実施した。
- ②体力維持や向上に向け、理学療法士の指導による自主トレーニングプログラム（エルゴメーター・筋力トレーニング等）を作成、自宅でも訓練の継続が図れるよう指導・助言を行った。
- ③就労を目標としたパソコン課題・机上課題・軽作業（仕分け・ピッキング他）等に取り組む事で得手・不得手の自覚を導き、改善方法を見出すことで就労意欲を喚起し、オンラインによる企業説明会に参加してもらい、就労移行をサポートした。
- ④外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に改善策を提案した。また、余暇活動でも外出訓練を取り入れ、社会生活支援につなげた。
- ⑤送迎サービスを開始し、多くの利用があった。また訪問型訓練を開始し、サービスの充実を図った。

4. 理学療法

リハビリ計画書に基づいた理学療法士による機能訓練を実施した。身体機能の維持や向上を図り、二次障害の予防や軽減を目的に自主訓練メニューを作成した。

5. 作業療法

個別支援計画書に基づいた作業療法士による訓練を実施した。各種プログラムに作業療法士が入り、利用者の様子を見ながら、個別性の高いプログラムを組み立て、実践の中で、達成度や改善点の共有を行なった。

令和2年度 品川区立心身障害者福祉会館生活訓練事業報告

1. 総括

生活訓練の目的・機能を明確化し、事業を実施した。実施に際して、医療、障害者相談支援センター、就労支援センター等関連機関との情報交換、情報共有を図り、支援の連携体制の強化に努めた。また、区内の訪問看護事業所や在宅介護支援センターに対象者の紹介を依頼し、稼動率向上を図った。さらに、利用日が祝日の時は、振替え利用を促し、稼働率向上に努めた。

また、特別支援学校卒業後の利用施設となるように学校に働きかけ、実習生の受け入れを目指したが見学のみで、利用には結びつかなかった。引き続き事業案内を進めていく。

訓練内容としては、見学・面接等で1人ひとりのニーズを把握し、併せて作業療法士、理学療法士による専門的観点からプログラムを作り、実効的な内容を提供した。今年度は、第三者評価を受審、職員の支援やサービスの質の向上を図った。

2. 利用者状況

利用人数・稼働率・利用者平均年齢

利用者定員 6名 目標稼働率 65%	月及び年間平均稼働率	
年間を通して、登録者数が増えず、4名の利用者でスタートし、4月2名、11月1名、2月1名で退所となり、目標稼働率を達成できなかった。	4月： 26.2%	10月： 24.2%
日々、新規の方の利用促進に向け定期的に関係機関に働きかけを行ったが、コロナウィルスの影響もあり、問い合わせや見学、体験希望も少なく、新規利用者の獲得はできなかった。引き続き、利用者増加に取り組んでいく。	5月： 25.9%	11月： 19.3%
利用者1名が復職し、1名が就労移行支援事業所に移行し、2名が地域の在宅生活となった。	6月： 22.7%	12月： 12.5%
令和3年3月31日現在の在籍状況： 0名	7月： 23.0%	1月： 13.2%
	8月： 20.8%	2月： 16.7%
	9月： 24.2%	3月： 0%
	年間平均稼働率	19.1%
	4月から9月	23.8%
	10月から3月	14.3%
男性 0名 平均年齢： 歳	女性 0名 平均年齢： 歳	全体平均年齢 歳

3. 支援経過

- ①個別支援計画に基づき、作業療法士・理学療法士による訓練を実施した。
- ②訓練内容としては、一人ひとりのニーズを把握し、目標に沿ってパソコン課題、机上課題（プリント類）、軽作業、外出訓練、グループ訓練（軽作業）を取り入れた。また、就労移行事業所やオンラインによる企業説明会に参加した。
- ③外出訓練では、歩行状態や公共交通機関の利用状態等を観察し、利用者本人や介助者（家族等）に改善策を提案した。余暇活動も外出訓練とし、社会生活支援につなげた。
- ④生活調査を通じて、食生活・住環境・衛生管理・金銭管理等生活全般について、生活の質の改善、地域での自立を目指した。

4. 作業療法

作業療法士の評価、本人の希望等に基づき訓練内容の組み立てを行った。

5. 理学療法

作業療法がメニューの中心であるが、希望・必要がある場合には理学療法士による評価を行い、自主トレーニングメニューを作成した。

令和2年度品川区旗の台障害児者相談支援センター事業報告

1. 総括

令和2年度は、新型コロナウィルス感染拡大・感染防止の為に訪問や面談以外の電話での聞き取りや郵送でのやり取りが多くなった。また、事業所連絡会なども中止されることが多かった為、他事業所の状況などの把握が難しかった。

区内に新たに民間相談支援事業所が3か所、在支(在宅介護支援センター)併設型相談支援事業所が2か所開設されたが、意向確認の時点で希望されない方が多く移行は11件のみとなった。区の動きとして、年度途中から児童相談の移行が積極的に進んだ為、当センターでも児童の件数が大幅に増加した。

今年度より担当地域や通所事業所の担当変更や複数担当制を取り入れたことで、職員同士で意見交換や相談し合う姿が多く見られるようになった。また、支援センター会議にて個別ケースの報告や制度についての発表の機会を設けたことで、自身の支援についての振り返りや学習の機会となった。

2. 実施事業

(1) 障害者対象の総合相談、障害児者福祉サービスの利用援助について

- ① 各種の福祉情報を提供した。
- ② 各種福祉サービスを利用する際の援助を行った。
- ③ サービス利用計画書、障害児支援利用計画書を作成、サービス調整、モニタリングを行った。
- ④ 障害区分の認定調査を実施した。
 - (ア) サービス担当者会議を開催した。
 - (イ) サービス調整会議に参加した。
 - (ウ) 障害者の緊急時に対応した。
 - (エ) 区内障害児者関係事業所との連携を図った。
 - (オ) 品川区障害者福祉課と連携し、利用者の生活を総合的に支援した。

(2) 社会資源を活用するための支援

- ① 各種施設・関係機関等の紹介を行った。
- ② 障害者が外出する際の支援を行った。
- ③ 障害者に対しての住宅の紹介を行った。
- ④ 外出や旅行、買い物などの生活情報を提供した。
- ⑤ 障害者の自主グループ等の情報を提供した。

(3) 社会で生活するための能力を高める支援を行った。

(4) ピアカウンセリング

完全個別相談、事前予約制に変更し、予約が入った日のみの開催とした。各相談員の事情により 2 名の継続が難しくなった為、2 名の相談員での実施となった。

(5) 訪問リハビリ相談

在宅の重度の身体障害者を対象に、車椅子・補装具・リハビリーションに関して理学療法士による相談日を設け、助言指導を行った。

(6) 関係機関とのネットワーク構築を目指し、行政・各障害者施設・各ヘルパー事業所・就労支援センター等と連携を図った。

(7) 自立支援協議会へ参加した。

(8) 入浴サービス

家庭での入浴が困難な重度の障害者の方々へ巡回入浴車を派遣した。

(9) 高次脳機能障害者相談

評価、復職、退院後の生活等について、専門の作業療法士による相談支援を実施した。今年度は児童の相談が入り、学校等の関係機関を含めたカンファレンスにも参加した。

3. 会議・研修

- 品川区障害者福祉課主催の会議、連絡会に参加
- 東京都障害程度区分認定調査員研修（東京都福祉保健局）
- 品川福祉カレッジ 子ども支援研修

4. 実習生の受け入れ

- 聖学院大学 心理福祉学科 1名

5. 資料：相談支援事業内容集計(障害者)

※数字は延件数

①相談者内訳（人 ※障害別は延人数）

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
1,432	621	55	868	66	3	74	13

②調査件数（件）

認定区分調査 (新規・更新・変更)	計画相談 (新規・更新・モニタ)
62	646

③支援方法（件）

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
664	171	53	1164	59	59	1,208	1,812	5,190

6. 資料：相談支援事業内容集計(障害児)

①相談者内訳（人 ※障害別は延人数）

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
160	10	1	76	1	82	2	0

②計画相談件数（件）

計画相談 (新規・更新・モニタ)
107

③相談内容内訳

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
58	23	0	89	2	1	76	27	276

令和2年度品川区大井第二障害者計画相談支援事業所事業報告

総括

令和2年10月に事業を開始し、地域拠点相談支援センターである品川区南品川障害児者相談支援センターからのケースの引継ぎの準備を進めたが、新型コロナ感染症拡大の為に移行が進まず、令和3年度に向け、再始動する準備を進めた。

高齢者施策との連携推進として、障害福祉サービスと介護保険サービスを併用している利用者の支援に際して、併設の大井第二在宅介護支援センター(在支)ほか、地域の在支、居宅支援事業の介護支援専門員と協力し、1名の利用者に対して2名の担当が計画作成やサービス調整を分担・共同して重厚な支援を実施できるよう準備している。

2. 会議・研修

- ・品川区障害者福祉課主催の会議、連絡会
- ・在支の地区ケア会議、定例会に参加
- ・品川区介護支援専門員連絡協議会（通称ケアマネットしながわ）の障害ケアマネジメント部会

5. 資料：相談支援事業内容集計

①相談者内訳（人 障害別は延人数）

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他
19	19	0	0	0	0	0	0

②支援方法（件）

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
15	0	0	8	0	0	63	15	101

③計画相談件数（件）

計画相談(新規・更新・モニタ)	8
-----------------	---

令和2年度 品川区中延障害者計画相談支援事業所事業報告

1. 総括

令和2年度は、開設当初から進めてきた地域拠点相談支援センターである「旗の台障害児者相談支援センター」からの対象ケースの引継をほぼ完了し、介護保険移行期及び、制度併用の利用者や新規利用者の受け入れを開始した。

実績を積み上げる中で、区内の「高齢障害」の専門相談事業所として少しずつ周知され始めている。特に高齢者支援側からの問い合わせや連携依頼などが増えた。また、高齢・障害当事者のみならず、いわゆる老老・老障介護・8050問題といった高齢者の家族の課題・高齢者世帯の課題にケアマネージャーと連携を取りながら取り組むことができている。

利用者の介護保険移行時には事前に本人・家族はもとより、地域の在宅介護支援センター(在支)やケアマネージャーと情報交換し、支援の流れを確認することで、移行や併用がスムーズに進むように支援を進め、連携による効果がみられている。また、高齢者施策との連携推進として、障害と介護保険サービスを併用している利用者の支援に際して、併設の中延在宅介護支援センターほか、地域の在支、居宅介護支援事業の介護支援専門員と協力し、1名の利用者に対して2名の担当が計画作成やサービス調整を分担・共同して重厚な支援を実施した。

2. 会議・研修

- ・品川区障害者福祉課主催の会議、連絡会に参加
- ・在支の地区ケア会議、定例会に参加
- ・品川区介護支援専門員連絡協議会（通称ケアマネットしながわ）の障害ケアマネジメント部会に参加

3. 資料：相談支援事業内容集計

①相談者内訳（人 障害別は延人数） ※実人数は10月～3月までの各月の合計

実人数	身体	重症心身	知的	精神	発達	高次脳機能	その他	合計
188	276	0	127	7	0	35	0	445

②支援方法（件）

訪問	来所	同行	電話・FAX	メール	個別支援会議	関係機関	その他	合計
157	2	24	190	28	1	563	23	988

③計画相談件数（件）

計画相談(新規・更新・モニタ)	124
-----------------	-----

令和2年度 品川区障害者地域活動支援センター事業報告

1. 総括

令和2年度は、新型コロナウィルス感染拡大防止の為、4月から6月まで各種教室、講習会については中止とし、7月から参加人数を制限し、感染防止対策を行いながら順次開始した。また、手話講習会については中止とし、代わりに「体験講座」「フォローアップ講座」を開催した。その他、手話通訳者の現任研修や懇談会等については、オンラインを取り入れる等、開催方法を変更しながら実施した。

次年度の新規利用者獲得の為、各種教室の内容の見直しを行うと共に、各教室の事業紹介のチラシや予定表を作成し、関係機関を通して周知した。

品川区意思疎通支援事業(手話通訳関係)に関する各種の会議の議題と参加者を整理し9月に全体会議、2月に懇談会を開催した。事前に議題を整理することで、関係者間で現状の課題を共有し、今後に向けた話し合いの場となった。

2. 事業状況

(1) 相談・指導・訓練

- ①一般相談:窓口や電話により各種相談に応じた。ボランティア活動希望等については各種事業やボランティア団体等を紹介し、ニーズとサービスを結び付けた。
- ②言葉のリハビリ教室:脳血管障害による失語症罹患者を主な対象にして、言語療法士の指導のもと言語訓練を実施した。今年度、講師が交代した為、昨年までのプログラムを継続しつつ新たな内容に変更した。

(2) 社会参加プログラム

{創作(工作・切り絵)教室、料理教室、音楽教室 ダンス教室
健康体操教室、高次脳機能障害者・知的障害者の生活講座}

地域で自立した生活を送れるよう、生活基盤作りのためのプログラムを組み、仲間との交流や趣味を持つことで生活の質が向上するように援助した。料理教室については、感染防止の為、年間を通して中止とした。知的障害者の生活講座の登録者(参加者)が少ない為、次年度に向けて内容を変更することとした。

(3) 障害者パソコン指導

障害者の情報通信技術(IT)の活用のニーズに応えるため、障害者パソコンテーマ別教室と相談日を設定、実施した。

(4) 手話通訳者・要約筆記者派遣事業

聴覚障害者からの依頼により、手話通訳者・要約筆記者の派遣を行った。技術向上のため、登録手話通訳者・要約筆記者への現任研修を実施した。感染状況をみながら人数を制限し、オンライン研修を取り入れることで予定通り実施することができた。

(5) ボランティア育成・啓発事業

障害者の完全参加と平等という障害者福祉の理念が区民に深く定着するよう、ボランティア講習会を実施し、各種団体と連携をとりながら育成を行った。また、各種講習会を通して、障害者福祉の啓発に努めた。

中途失聴・難聴者向けの講座内容の見直しの為、昨年に引き続き区民公開講座を開催し、次年度の講座内容について検討を行った。

法人の事業である「移動支援従業者養成研修」を9月に開催し、15名が研修を修了した。

- ・講座、講習会：手話講習会、点字講習会、朗読講習会等

(6) 交流室の運営

事業等に参加した方が気軽に立ち寄れるスペースとして交流室を活用した。季節に応じた行事等を企画し、利用者に親しまれ、様々な情報を得られるようなスペースとなるよう工夫した。

(7) 各種貸し出し事業

①部屋の貸し出し

障害者・ボランティア団体、地域へ部屋や機器等の貸出しを行った。

②区内の障害者に対して車椅子の貸し出しを行った。

事業名	R 2	R 元	H 30	事業名	R 2	R 元	H 30
パソコン教室 教室・相談・テーマ別	45	89	103	創作教室(手芸・編み物・工作・ 切り絵・絵画、和紙・折り紙)	310	396	351
ダンス教室 (知的障害)	76	81	79	生活講座 (知的障害)	5	14	21
健 康 体 操 教 室 (肢体不自由)	169	194	195	生活講座 高次脳機能障害	30	54	39
料理教室(知的)	0	45	43	PT訓練			
料理教室(身体)	0	39	27	点字講習会	111	111	108
聞こえにくい方の コミュニケーション講座	14	52	22	手話講習会(全5クラス) 入門・基礎・通訳Ⅰ	中止	2,266	2,004
言葉のリハビリ教室	135	216	256	朗読講習会	82	249	269
音楽教室(歌・合唱)	46	111	102	要約筆記啓発講座	14	55	0
音楽教室(音楽療法)	35	55	50	造形ワークショップ	30	84	0
高次脳機能障害者 サポートー養成	47	46	43	手話体験 フォローアップ講座	293		

交流室	908	1,377	1,297	手話通訳者派遣事業	691	779	706
合同交流会			96	要約筆記者派遣事業 (区/広域・派遣 C)	66	80	67

数字は延人数 斜線は事業開催なし

令和2年度 福祉工場しながわ事業報告

1. 総 括

利用者の関係では、1月に1名が新規利用、3月に2名が退所されている。

清掃事業は区内36カ所の公園清掃を請負うほか、臨時の清掃を請負った。清掃単価は引き続き単価交渉し、平米単価が微増となっている。

製パン事業は年度後半よりオペレーションの見直しを図っている。また原材料の仕入れ先を開拓し、コスト削減に努めている。

製陶部門は契約数以上の受注があり活況であった。引き続き環境整備と改善に努めている。

就労会計全体では、緊急事態宣言発出の影響もあり、昨年度比で減収となっている。

事業所では、事業所内研修、東社協、福祉保健局研修等、職員学習会等の機会を通して障害者差別解消法、人権意識の向上に努めた。

2. 利用者状況（令和3年3月31日現在 単位：35人）

（1）年齢構成（平均年齢46.0歳）

	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	65歳～	計
男	1	4	15	4	0	2	26
女	0	0	5	4	0	0	9

（2）在所期間状況（平均在所14.7年）

	0～2年	3年～	5年～	10年～	計
男	1	1	7	17	26
女	0	0	1	8	9

（3）愛の手帳

	2度	3度	4度	計
	男	女	男	女
男	0	10	16	26
女	0	6	3	9

（4）障害支援区分

	非該当	区分1	区分2	合計
男	0	10	16	26
女	5	1	3	9

（5）退職者等 2名

（6）実施機関：品川区33名、江東区1名 大田区1名

（7）賃金支払い実績（単位：円）

	支払い総額
令和2年度	56,201,909
令和元年度	55,006,861
平成30年度	58,233,892

3. 支援・業務経過

(1) 支援全般

従業員1人ひとりに適した作業支援、作業環境の整備に心がけ、安定した作業が出来るように働きかけた。また従業員の精神面の支援として、家族等も含め面談を随時実施した。

(2) 日課、作業状況

○第1業務(8:00～16:00)

	場所	令和2年度	令和元年度	平成30年度
公園清掃	区内公園	36公園 3890回	35公園 3991回	35公園 3933回
	鮫洲公園	210回	241回	244回
建物清掃	12箇所	延3169回	延3254回	延3555回

*南ゆたか児童センター改修工事の為、建物清掃回数減少。

○第2業務(7:00～19:00)

	回数	内 容
店舗開店日	273日	通常営業(パン製造・販売)
定例外部販売	218日	小野学園、大井林町、八潮南GH、学研 城南職業能力開発センター、マクニカ他
出張販売・出店	0回	*記念品等の納品あり

*新型コロナウィルス感染防止のため、中止が多数

○第3業務(8:00～16:00)

骨壺種類	令和2年度	令和元年度	平成30年度
7号(大人用)	7383	6886	6590
6号～3号	433	309	298

(3) 作業支援

社会人として従業員個々が考え、責任感を持って仕事に取り組めるよう働きかけ、また仕事に対して自信を持ち、社会的自立へつながるよう援助した。

(4) 行事等

9/4 納涼会(31名) *事業所内にて飛沫防止対策構築の上実施。

(5) 健康管理

健康診断(法定)を実施、健診後のフォローも産業看護師と協力して相談、改善へと繋げている。

(6) 食事

昼食は信頼性の高い弁当業者と契約、適温で弁当を提供している。

4. 売上状況 (円)

売上	第1業務	第2業務	第3業務	合計
令和2年度	66,585,097	21,408,008	41,548,400	129,541,505
令和元年度	65,732,642	27,595,599	37,392,674	130,720,915
平成30年度	62,366,304	28,941,117	35,173,700	126,481,121

令和2年度 鮫洲なぎさの家事業報告

1. 総括

新規世話人の採用、育成をもあり、安定した生活支援を進める事が出来た。利用者の家族も高齢となり、帰宅が難しくなってきている中、休日の過ごし方についても、支援の必要性・重要性が高くなっている。コミュニケーションや話題性の提供により、社会性が保たれる部分が大きかった。行事としては、近隣散策の外出が好評であった。

食事の提供も、宅配業者から食材料を購入しての、メニューに従い決められた調理を実施しての提供も安定してきた。また、外食やデリバリー等を実施し、気分転換を図っている。健康管理を考え、カロリーや栄養価管理がより重要であり、最適な食事提供を今後も継続していく。

2. 利用者状況（令和2年3月31日現在）

(1) 年齢

年齢層	20歳代	30歳代	40歳代	50歳代	60歳代	70歳代	平均年齢
人数	0人	0人	3人	2人	1人	0人	51.3歳

(2) 入所元

入所元	自宅	入所施設	他グループホーム	計
人数	4人	0人	2人	6人

(3) 日中就労、通所先

通勤・通所先	就労継続A型	就労継続B型	生活介護
人数	2人	3人	1人

(4) 入退所

4月に1名入所。

3. 支援経過

(1) 支援全般

世話人と利用者の関係作りや生活も安定してきており、出来る限り、自主性を尊重して、自己選択・自己決定に配慮した日課作りを進めた。

個々の問題に対しては、個別面談、全体ミーティングを実施した。利用者への対応としては、傾聴に努め、必要な助言を行った。

(2) 食事

利用者の体重増加、栄養管理等を考慮して、民間業者の食材の宅配により食材料を購入、そのメニューに従って、現場での食事作り、提供を継続実施した。安価な食材費での提供と栄養管理的にも行き届いており、その効

果は健康面で徐々に出て来ている。一方では多様な食事・嗜好に対しては、近隣の中華料理、回転すし、レストラン等で食事機会を設けた。また、誕生日でケーキでのお祝いも継続して実施した。これらにより、栄養面での健康管理と豊かな食事、気分転換を含めた食事という両面において有意義な食生活であったと考えている。

(3) 生活・行事等

個々人の生活リズムを尊重した基本的生活支援を行い、個人の生活を大切にした掃除や洗濯等の基本的生活要素の自立支援及び余暇支援等を行った。その他、余暇活動として、カラオケ、ドライブを実施、また、お花見会、クリスマス会、初詣外出を実施した。

(4) 健康管理

健康管理として、持病を抱えている利用者3名は定期通院に付添し、担当医に日常の経過報告を正確に伝え、治療を進めるとともに、服薬管理や健康管理への助言、支援を行ってきた。また、区民検診、インフルエンザ予防接種は全員実施した。

4. 会議・研修

東京都グループホーム研修会(リモート)に参加。個別支援計画打合せ、職員会議を実施。

5. 就労、通所支援

- (1) 各通所施設等への職場訪問を行い、先方事業所との連絡を密に、通所、就労状況の把握と諸課題解決への調整、連携に努めた。
- (2) 施設通所利用者には施設の保護者会や行事に世話人が出席し、連携を図ってきた。

6. 家族・地域との関わり

保護者会を1回実施した他、出席できない家庭には「家庭訪問」や「個別面談」を実施した。必要に応じて家族と連絡をとり、課題の解決を図ってきた。また、地域行事の「バーベキュー」はコロナ過のため統括施設長と理事のみ招いて実施。

7. 安全管理

避難訓練（防災・震災）を年間12回実施。

エレベーターインバータ工事実施。

コロナ対策として帰寮時に使い捨てコップでのウガイを徹底。以上

令和2年度 さつき事業報告

1. 総括

令和2年度の作業は、ウェディング会社の砂袋入れは安定していたが、アロマポート洗浄は昨年度より落ち込んだ。また、全国各地の災害発生により物流が悪くなり、市場関係の売り上げが落ち込んだ。しかし、引き続き着物の解体作業、ケーキ箱の組み立てなど引き続き実施した。

花ふきんは福祉ショップでの売り上げやバザー、個人注文で安定した売り上げとなっている。

クリーニングでは、全体的に安定した。また、次年度も関係機関と情報を共有し、工賃向上に努めていく。

喫茶売店については、各メーカー価格上昇や冷凍食品の仕入れ先が少なくなってきたおり、タバコの売り上げも落ちている。新たな喫茶メニューの展開、冷凍おにぎり等販売拡大、売れ筋の安いカップ麺の販売も行った。

今後も目標工賃達成指導員を中心に試行錯誤しながら継続して工賃向上に努める。

利用状況では新規の利用が2名あり、若干の退所者はいたが、月平均稼働率102.6%となった。また、年度当初の新型コロナウィルスによる緊急事態宣言を受け、在宅支援の充実を図り、施設内では感染対策を十分実施した。

2. 利用者状況（令和3年3月31日現在）

（1）年齢構成（人）

	令和2年度		令和元年度		平成30年度	
	男性	女性	男性	女性	男性	女性
18～20代	4	4	4	5	4	5
30代	4	0	4	0	5	0
40代	8	7	8	7	8	7
50代	8	6	8	6	8	6
60～70代	5	6	6	5	6	5
平均	49.8歳		48.8歳		46.5歳	

（2）在籍期間状況（平均在籍 14.1年）

	0～2年	3年～	5年～	10年～	計
男	0	10	6	13	29
女	2	3	6	12	23
計	2	13	12	25	52

3. 支援全般

(1) 授産売り上げ、工賃実績

授産売り上げ 単位：円

作業班	令和2年度	令和元年度	平成30年度
軽作業	2,979,800	3,933,422	4,799,168
軽作業（清掃）	302,500	298,660	296,400
自主製品	1,916,907	1,689,525	1,234,023
喫茶・売店	21,496,108	21,768,178	23,373,780
クリーニング	32,870,651	32,469,852	30,213,683
合計	59,565,966	60,159,637	59,817,054

工賃実績 単位：円

	令和2年度	令和元年度	平成30年度
軽作業・支給総額	4,531,502	4,808,136	4,130,157
軽作業・最高額	18,468	19,530	19,140
軽作業・月平均額	8,504	9,104	9,099
クリーニング・支給総額	10,567,470	11,884,313	11,692,715
クリーニング・最高額	41,184	40,524	40,963
クリーニング・月平均額	22,665	22,954	22,474

(2) 健康管理

①定期健康診断は年1回実施、聴打診、尿検査の他、胸部X-P、血液一般、心電図等実施。

②嘱託医による健康相談を毎月1回実施（従事業所は第3火曜日）。

(3) 就労支援その他 就労継続支援A型移行、一般就労等なし

余暇支援は新型コロナウィルス感染予防のため、実施出来なかつた。

4. 会議、研修

職員会議を毎月実施、その他個別支援計画会議、アセスメント会議、現任研修、虐待防止委員会等を実施した。

5. 実習生

実習生は品川介護専門学校より2名受け入れをした。

6. 防災

主事業所は新型コロナウィルス感染に十分注意し、ピッコロ・にじのひろば八潮と共同して防災訓練等を実施した。従事業所は、上記同様感染に十分注意し、本部内の施設と共同で防災訓練等を実施した。

令和2年度 八潮中央保育園事業報告

1. 総括

4, 5月は緊急事態宣言の発令により、登園人数の減少が見られた。宣言解除後は、通常通りの定員を満たした状態で運営を行っている。

新型コロナウイルス感染症対策として、行事の中止や規模を縮小しての開催、日常生活では手洗いの励行の強化、食事場面でのパーテーションの利用等を行い感染防止に努めた。

2. 利用者状況

令和2年度年齢別利用状況 (令和3年3月31日現在 単位：人)

	0歳児	1歳児	2歳児	3歳児	4歳児	5歳児	合計
延人数	108	180	180	240	239	238	1185
月平均在籍数	9.0	15.0	15.0	20	20	20	99

利用率 (%)

年 度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
利用率	110	110	110

延長夜間保育利用状況 (人)

年 度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
月平均延人数	113	161	136

年末保育利用状況 (人)

年 度	令和2年度	令和元年度	平成30年度
12/29	1	0	3

3. 保育経過

(1) 保育全般

全体的な計画を基に、各クラスの指導計画に沿って園児一人ひとりの健やかな成長を第一に考えて保育を行った。

(2) 日課

乳児は、午前中に散歩や散策等の戸外活動を取り入れ、存分に体を動かしながら自然に触れる機会を多く取り入れた。

幼児クラスは感染防止に配慮しながら、異年齢の交流や行事の取組みを含めた様々な活動を取り入れつつ、散歩や園庭遊び等で身体を動かしたり、集団遊びを積極的に取り入れた。

(3) 行事

新型コロナウイルス感染症対策のため、中止、規模の縮小はあったが、感染防止に努めながら、子ども達に行事の由来や意味を伝え、行事の雰囲気を楽しめるように配慮した。

(4) 健康管理

例年、発生する胃腸炎やインフルエンザの蔓延は見られなかった。
コロナウイルス感染症対策強化として、園内の消毒液の設置や園児、保護者、職員の毎日の検温を行った。
ケガによる通院件数は15件であり、室内や戸外での転倒による歯牙の打撲が年齢を問わず多い。また、1件、散策先で転倒しての骨折があった。

(5) 給食

和食を中心としたメニューを基本とし、様々な味を経験する機会を作った。
食物アレルギー児に対しては、主治医の診断書をもとに除去食を提供している。

(6) 地域交流

新型コロナウイルス感染症対策として、地域の関係機関との交流は実施していない。

(7) 一時保育

母親の第2子出産に伴う入院のため、3歳児の利用申し込みがあった。
その他数件、乳児クラスの申し込みがあったが、受け入れ態勢が整わずお断りした。

4. 会議・研修

品川区私立保育園連合会他、キャリアアップ研修、その他様々な団体主催の研修に職員を派遣した。新型コロナウイルス感染症の影響で開催が中止になったものや規模の縮小、オンライン形式での開催となったものが多い。

会議については月1回の職員会議で意見交換を行い、共通認識を促した。感染防止の観点から会議の参加人数は各クラス1名に制限している。

全体職員会議を年2回実施し、次年度の計画等を全職員で検討する場とした。

5. 保護者との関わり

保護者会は参加人数を制限して実施した。主な内容は、クラス運営について、大規模改修延期について等である。

6. 防災、安全対策

毎月の避難訓練で災害時の対応を確認した。9月に引取り訓練、2月に津波想定訓練、3月に時間や場所等を予告をせずに緊急避難訓練を実施した。また、11月に安全対策として職員と年長児も参加しての不審者対応訓練を実施した。

7. 環境整備、備品購入

幼児用防災頭巾を新たに購入した。

また、保育ソフトのウェブ化、Wi-Fiネットワークの工事を実施し、職員の事務作業がスムーズに行えるように整備した。

令和2年度 八潮わかくさ荘事業報告

1. 総括

八潮わかくさ荘は、4~8階の40戸の単身者用高齢者住宅の管理及び緊急時の対応を行なった。平均年齢83.3歳、要介護認定又は事業対象者の認定を受けている方が13名おり、内5名がヘルパー派遣等の介護保険サービスを利用している。1年間に退居した方は4名、新入居者は3名と例年に比べ少なかった。

今年度の新規入居者については、日常生活においては自立している方が多く落ち着いている。また、同一建物にあるデイサービスで実施している通所介護や配食、通所給食の利用の等により連携した対応ができている。

夏場に熱中症予防を掲示や声掛けで呼びかけていたが、居室内で逝去し12時間生活リズムセンサーで発見された方がいた。また、居住者間のトラブルについてその都度区とも協議し対応を行った。昨年度の台風の影響によるエレベーター内被水により、区により緊急の排水対応の工事を実施し、今年度は被水することは無かった。

2. 入居者状況

入居者の心身状況の変化に伴い、日常生活についての相談やサービス調整等に支援センター、区、各関係機関と連携した。また、昼夜にわたって様子伺いを実施するなど、デイサービス、支援センター、ワーデンが一丸となって対応を続けている。3月末現在入居者39名、内要介護認定、事業対象者は13名となっている。

〈入居者の介護サービス利用状況〉

令和3年3月31日現在

	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食・配食
令和2年度	3名	4名	3名
令和元年度	3名	4名	2名
平成30年度	2名	4名	2名

3. 設備管理

建物の老朽化が進んでおり、各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応した。

4. 防災訓練

新型コロナウイルス感染拡大により、例年実施していた60号棟との合同防災訓練、八潮地区総合防災訓練については中止となった。八潮在宅サービスセンター、支援センター、サンかもめ合同の総合防災訓練も新型コロナウイルス感染予防のため不参加とした。

5. その他

ワーデン業務については、非常勤職員3名を雇用し対応していたが。令和元年12月よりワーデン1名が退職。令和2年4月まで募集するが見つからず職員が宿直業務に入っていたがその後は雇用できている。

令和2年度 大井倉田わかくさ荘事業報告

1. 総 括

大井倉田わかくさ荘は、2階建て建物の1階部分計8戸の小規模な単身者用高齢者住宅である。この住宅の管理は、夜間、保障会社による、生活動作確認・非常通報・火災検知の24時間機械警備を実施した。平日の昼間は同敷地内に隣接する大井在宅サービスセンター（在宅介護支援センター）が、様々な相談を受けている。

基本的には自立・自活されている高齢者が入居しているが、8名中、2人が要介護認定を受けそれぞれ介護サービス受給及び住宅改修を行っている。

2. 入居者状況（令和3年3月末現在、6名入居）

- ・認知症の・腰痛で入院後に単独外出や自宅での家事が困難となったため、在宅介護サービスで日々の生活を支えている。

〈入居者の介護サービス利用状況〉				令和3年3月31日現在
福祉用具貸与	ヘルパー利用者	デイサービス	通所給食	
1名	2名	2名	0名	

3. 設備管理

各居室において様々な不具合が発生しており、その都度生活に支障をきたさないよう対応した。消防設備の点検（年間2回）を実施した。敷地内清掃を毎月実施。

4. 防災訓練

サービスセンターとの避難訓練（9月29日）に参加を呼びかけた。当日はわかくさ荘101号室からの出火想定とし、入居者8名中4名の参加があった。

5. その他

・警備会社の警報発報による出動が24回あった。そのほとんどが、トイレドアの開け放し及びトイレ未使用により発報が起こっている。また、緊急ペンダントを押された方もおり、その時点での救急車の出動が3度あったが、病院への搬送の必要性はなくお戻りいただいている。

- ・平日日中に、わかくさ荘内の法人職員寮からのボヤがあり、消火対応をしている。

令和2年度 大井三丁目高齢者憩いの場事業報告

1. 総括

当事業の実際の運営に専属職員はおかげ、法人内事業所からの委員により運営委員会を組織し、事業を企画、準備、分担、実施してきた。

令和2年3月より6月まで、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、休館となった。7月から開館したが、飲食禁止、全ての事業はスタッフを含め6名の予約制として実施した。火曜日・金曜日に実施されていた縁側カフェの枠はピンコロ道場を実施、土曜日に実施されていた多世代交流事業「ひなたぼっこ」の実施は難しい為、品川区の判断で土曜日は閉館となった。

2回目の緊急事態宣言中も、園芸療法・ピンコロ道場・地域ミニディを実施し引きこもり防止、生活活性化等の介護予防の場を設け役割を担った。

2. サービス・事業内容

(1) 地域の高齢者や障害者、子育て世代等の憩いの場・交流の場

①園芸療法を用いて、菜園を利用した土いじりや草花や野菜などの園芸活動や、身の回りにある自然との関わりを通して、心身の健康維持、回復を目指した。

②ピンコロ道場に、生活総合機能改善機器「DKエルダーシステム」のカラオケ機を導入し火曜日・金曜日に実施し、地域ミニディ事業の卒業生の行き場作りとして健康体操を中心に開催した。

③9月の開催予定の地域交流事業「こすもすパーティー」は、新形コロナウイルス感染防止の観点から中止となった。

④ほっとサロン：品川区社会福祉協議会登録団体に部屋を貸し出し、外出機会の少ない高齢者を中心とした地域交流の場とした。

⑤大井第二地区 支え愛ほっとステーション「よりみち」に部屋を貸し出し外出機会の少ない高齢者を中心とした地域交流の場とした。

(2) 介護予防事業

・地域ミニディの開催

介護予防・日常生活支援総合事業としてボランティアによる地域ミニディサービスを実施、健康新作り体操等高齢者の介護予防を進めた。

(3) ボランティア講座

- ・「心身に働くアロマの効果とセルフケアの方法」を学ぼう

日時 令和3年3月13日（土）

開催場所 大井第2地域センター集会室

参加者人数 18名

講師 認定アロマアナリスト 蓮沼友子氏

(4) その他

- ・夏期は品川区の「避暑シェルター」事業による水分補給の場として、新しく、園庭にミストを用意しコロナ対策を徹底して実施した。

※ 4月～6月、新型コロナウイルス感染拡大防止の為、休館

※ 土曜日休館

事業名	開催回数	利用者数（人）		備考
		令和2年度	令和元年度	
縁側カフェ	中止	中止	6 6 2	
園芸療法	3 1	9 4	1 8 7	
地域ミニディ	3 8	2 1 8	2 6 5	
ビンコロ道場	5 0	2 3 4	2 1 4	30年3月開始
「ひなたぼっこ」	中止	中止	2 2 7	多世代交流事業 (工作・おやつ作り)
その他	1 5 0	5 2 5	2, 6 3 5	避暑シェルター他
こすもすパーティー	中止	中止	1 7 0	地域交流事業(9月)
合計（直営事業）	2 6 9	1, 0 7 1	4, 3 6 0	

ほっとサロン	6	1 4	2 2 2	品川ボランティアセンター事業
フリースペース				大井第二地区支え愛・
「よりみち」	9	3 4	2 1 5	ほっとステーション